

社会調査初学者における訓練プログラムの開発： 長湯温泉地における地域おこしの事例

白石義郎

Developing Training Research Project for the beginners of the social research : A case of Community efforts at NAGAYU Hot spring Area.

Yoshiro Shiraishi

【要約】社会調査初学者の訓練カリキュラムの構築のための調査実習をおこなった。テーマと調査地を教員が決めたために、動機づけに課題が残った。調査技法としてのKJ法は初学者にとっても有効であったが、KJ法本来の到達点にはいたらなかった。調査地をかえた繰り返しの訓練をおこなえば効果が期待できる。ただし、面接項目の決定までにはいたらなかった。写真撮影をおこない「一枚の写真」として選びださせる調査技法は有効だった。しかし、初学者への効果を数量的に測定できる評価プログラムは開発できなかった。今後に残された課題である。

【キーワード】社会調査 カリキュラム開発 地域おこし 温泉 KJ法
社会調査士

第1章 調査デザインの組み立て

第1節 基本的スタンス

この研究の目的は、社会調査の初学者への学習を促進することにある。したがって、その目的は(1)社会調査への興味・関心を誘引すること、(2)社会調査が何であり、どのように問題が立案され、どのように実施され、どのように評価されるかのサイクルを経験させることである。そこで、以下のような訓練のための調査計画を立案した。

本演習が研究のためではなく、初学者のための教育としておこなわれる以上、評価は学習効果の観点からおこなわれねばならない。そこで、ここでは以下の学習の観点から検証をおこなった。

①初学者への動機づけ

動機には二つの側面が含まれる。第一は、社会調査自体への興味関心の喚起であり、第二は社会調査の意義の感得である。この両者は密接に関連するが、動機のカテゴリーとしては区別すべきものである。

社会調査自体への関心は、初学者の主体に関わるものであり、情動的なものである。他方、社会調査の意義はカリキュラムの実施者に関わるものである。狭義には、動機づけは学習者の主体をさすが、カリキュラム効果を測定しようとする場合は、両者は区別されねばならない。「面白かった、でも何も覚えていない」では、カリキュラム効果の測定にはならない。

②初学者の調査技術の習得

社会調査は実践的なものであるから、何らかの技術の習得が測定尺度として含まれなければな

らない。しかし、社会調査初学者においては、統計処理などの高度な調査技術の習得を測定尺度にするには無理がある。そこで、ここでは調査項目創出のための発想法、面接のためのレポートのとりかたなどの初歩的技術の習得を尺度とした。

第2節 調査テーマの選定

社会調査の初学者のためのテーマ選定には、初学者ならでの配慮を必要とする。カリキュラムに従えば、初学者向けのテーマとなりうるには、次の条件が必要である。

1. 初学者にとって切実であること。
2. 初学者にとって身近であること。
3. 初学者の既知の知識をあてにできること。

本カリキュラムにおいては、私の専門領域を調査テーマとすることは断念した。上記の条件を満足できる調査テーマを初学者に提供できないからである。専門領域にかえて、前述の条件を満たしうる調査テーマを設定した。その調査テーマは、「温泉地における地域活性化と温泉旅館の経営戦略」である。

このテーマ設定には二つの理由がある。第一の理由は、コミュニティ研究が情報社会学科のカリキュラムに組み込まれているからである。そのため、初学者の既知の知識を活用できるし、さらに、情報社会学科のカリキュラムに関連づけることができる。

第二の理由は、地域おこしと経営は、社会学の固有のテーマだからである。地域おこしは、パブリック・セクターとし個々の旅館経営というプライベート・セクターが交錯する地点であるからだ。地域の社会的活動としての地域活性化と個々の温泉旅館の経営は密接に関連する。しかし、その関係は単純はない。経営本位だけの地域おこしは失敗する。公共性が乏しいからである。同時に、個々の経営努力なしには地域活性化も存在しない。さらに、すべての旅館が同じではない。地域活性化と個々の旅館経営を結びつける「担い手」が必要であり、「担い手」の組織が必要である。この社会関係が、社会調査のテーマである。

第3節 調査対象地の選定

社会調査士養成教育のための調査において、調査地の選定は重要である。理論的関心と研究の蓄積のない初学者にとって、初めての調査地は彼らにとって親和的でなければならない。いかに社会学にとって重要であろうとも、係争地や深刻な事態が発生している地域は、初学者にふさわしくない。そこで、初学者向けの調査地として、大分県竹田市直入長湯（調査開始時点では直入郡長湯）を選定した。選定理由は以下による。長湯は温泉地区である。温泉は初学者の学生にとってなじみのものである。また、温泉は典型的な地場産業であり、地域社会と経済構造がクロスする地点である。したがって、温泉とそれを取り巻く地誌的・経済的感興は地域研究の格好の教材である。

第2章 調査の設計

第1節 調査協力者の確保

社会調査において初学者といえども、学習者が調査テーマと調査地を任意に選ぶことが好ましい。しかし、上述のようにそれはできなかった。そのため、私が調査地を探し出さざるをえなかった。

そこで二つの方法で調査協力者を探した。第一は、いわば飛び込みである。黒川温泉、小田温

泉などを訪問し、調査協力の可能性を探った。そのために、調査依頼の文を作成した。結果ははかばかしくはなかった。面会には応じてくれたが、調査依頼は断られた。第二の方法は、旅行会社社員を通じた依頼である。長湯温泉は旅行会社社員からの紹介であった。しかし、学生に興味あるテーマを選ばせることができなかつたことは、学生への動機付けという課題を抱え込むことになった。以下に調査依頼のパンフを示す。

(資料)

お手伝いできる温泉 宿を探しています

久留米大学 文学部 情報社会学科 マーケティング・リサーチ研究会

お 願 い

私たちは久留米大学文学部情報社会学科でリサーチ方法を教えています。

私たちは学生とともに、マーケティング・リサーチの専門知識を生かして、地域のお役にたきたいと願っています。今の学生にとって重要なことは、自分が世の中の役に立つことができるという確信をもつことでしょう。そのために、わたしの講義では“提案”をすることを学生に勧めています。“提案”とは、将来の発展のためのプランを作ることです。そのためには、自ら体験し、提案ができる現場が必要です。

わたしたちがお手伝いできること

(1) 学生の視点を生かしたホームページの作成 (無料)

情報社会学科の名が示すように、インターネットは私たちの専門です。そのための高度な技能を持った専任教員がいます。専任教員の指導のもとに、学生の視点を生かしたホームページを創ります。

(2) 「一番街商店街」の大型画面による放映

情報社会学科は久留米市の繁華街にある一番街商店街に映像ソースを提供しています。直接的な宣伝はできません(有料になります)が、学生のオリジナル作品として放映できます。

(3) 顧客調査

情報社会学科は調査の専門家の集まりです。どのような人にどのようなニーズがあるのか、わたしたちが見落としたニーズはないか、などの消費者ニーズの調査をします。このような調査を通して、顧客獲得のお手伝いをします。

コンタクトをとらせてください

お話したいことはたくさんありますが、ここでは簡単な説明しかできません。

コンタクトをとらせてください。

第2節 調査技術の学習

① KJ法

KJ法は初学者にとって、簡易で有益な調査技術である。そこで、KJ法を質問項目の導出技術として用いることにした。質問項目を初学者に自由に設計させることが理想である。しかし、上記の事情から、それはできなかつた。調査地と調査協力者とがあらかじめ決定されていることから、質問項目の大枠を動かすことはできない。しかし、ある程度は初学者に決めさせることは

できる。そのために、KJ法を用いた。

②一枚の写真

写真をとることが調査技術ではない。写真をとる目で地域を踏査し、さらに撮影した写真から一枚を選び出すのが調査技術である。一枚だけを選び出すことで、調査地の観察を定着化させることができ、また、初学者に事実の重みづけをさせることができる。最も大きな効果は、初学者自身の自発性を誘発できることである。あらかじめデザインされた社会調査では、ともすれば初学者は受身的になる。すなわち、みるべきものを指示され、枠付けされた記述をなすように求められる。これでは、動機づけにとほしく、学習効果も低い。初学者自身に一枚だけ選び出させることが、彼ら自身の選択を保障する。

第2章 調査実施の経過

第1節 事前準備

1 資料検索

学生が社会調査の初学者であるので、調査の意義を講義した後で、図書館を利用した資料検索とインターネットによる資料検索をおこなわせた。しかし、自発的な検索を期待したが、実際は指導教員の指示にしたがっただけであった。

2 KJ法による面接表の作成

KJ法の習得を調査技術の眼目として、KJ法の説明書をコピーして配布したのち、KJ法のパルス討論で面接項目の作成をおこなわせた。すなわち、自由連想でことばの湧出をおこない、それをカードに記入させた。次に、それらのカードをKJ法によって整理し、面接における質問項目の作成をおこなわせた。実際の作業においては、KJ法で教員が口を挟むことは厳禁であるが、何らかのヒントや指示を与えないと先に進まなかった。学生が作成したKJ法の最終結果を資料集の2-3に記した。

第2節 現地調査

1 現地訪問

平成18年9月18日に調査対象地である大丸旅館を訪問し、同旅館に宿泊した。面接は19日におこなった。学生が記録した日程記録を以下に掲載する。

(資料)

日 程

● 2006年9月19日(火曜)

大丸旅館到着

AM9:00大学に集合。大学から湯布院を目指した。高速道路を利用したので、2時間程で湯布院の駅の通りに着いた。そこで昼食をとった。大分名物とり天定食を皆で仲良く同じものを食べたのだが、あまり美味しいとは言えるものではなかった。由布院の町並みを楽しんだ後、バスの中で首藤勝次さんに行く質問の最終チェックを行っていた。山道の揺れが激しい中、宮地君は一人でワードを立ち上げ質問の入力をしていていた。

PM3:30。大丸旅館に到着。自分たちの部屋へ行き、荷物を置いた。鞆の中から、筆記用具・カメラ・テープレコーダーなどあらゆる物を持って、二階のお座敷で首藤さんを待っていた。緊

張しながら座っていると、大丸旅館で作られたチーズケーキとお茶を頂いた。美味しかったと話しているうちに首藤勝次さんが現れ、私たちにたくさんのお話をして下さった。足がしびれていたのを忘れるぐらいに勝次さんのお話に夢中だった。勝次さんのお話終了後、勝次さんを囲むようにして記念撮影を撮った。

大丸旅館周辺を散策

首藤さんのお話も終え緊張が解れたところで、旅館周辺の散策へ出かけた。旅館を出て、すぐ橋を渡ったところに飲泉場があった。興味を持った私たちは炭酸泉を頂いた。正直、あまりおいしくはなかった。思った以上に甘味だった。しかし、体に取り入れることで、体内から老廃物を溶かしているように感じた。後味が気になるだの言っているうちに「がに湯」を見つけた。がに湯は河原に位置して、囲いも屋根もなく、外から丸見えで非常に開放的な温泉である。川のせせらぎを堪能できることから、自然の中で入浴したい人にはもってこいであろう。さぞかし覗きの絶えない温泉でしょうと自分なりに感想を持ちながら歩いているとラムネ温泉に辿り着いた。とてもかわいらしい看板・建物に早く入浴したい気持ちでいっぱいになった。一通りの散策が終わると、長湯で作られたワインがどんなものであるか大変気になったので、ある店に入った。そこで白石先生がワインを何本か購入。先生はお土産だと主張した。

旅館の夕食

先程の散策でお腹も空いてきたところだった。昼食は不満の残る食事だったため、夕食への期待は大きかった。旅館の一階のお座敷へ行くとすでに準備されていた。料理はとても手の込んだものがお皿にちょこちょこっと載っていた。まさに芸術と言えよう。非常に繊細さが表れていた。そして、私は生まれて初めて馬刺しというものを頂いた。口の中で蕩けた。生まれて初めて食べた馬刺しが特上すぎて、また今度、普通の馬刺しを食べることができると不安に思うほどのだ。

いざラムネ温泉

お腹もいっぱいになったところで先程のラムネ温泉へ向かった。すっかり日も落ち、辺り一面に星空が広がっていた。こんな数多くの星を見たのは久しぶりだった。星との距離がとても近くに感じた。長湯の標高が高いからであろうか。上を向きながら歩いているうちに到着。これが日本一の炭酸泉、ラムネ温泉だと心弾ませながら入浴。長湯の事前学習をしていたため知っていたがやはりぬるい。しかし、体の芯から温まっていくような気がした。ほうほう。「熱い湯が苦手な長湯ができない人でも、ぬるいぐらい湯だったら思いっきり長湯ができるなあ。」と改めて長湯という地名を実感したのだった。しばらく湯に浸かっていると肌にたくさんの炭酸がくっついていて、肌を触ってみると、肌がツベツベだった。ふと温泉の周りには蚊除けのために蚊取り線香が燃やされていた。線香の香りと炭酸に私たちは包まれていた。

反省会

ラムネ温泉の入浴も終え、今日一日の反省会が始まった。反省会というかワインの試飲をした。赤と白の両方を試飲。一般的に飲みやすいと言われているのは赤。しかし、上品で口当たりが良いのは白だった。おつまみにチーズを食べた。

● 2006年9月20日（水曜）

朝食

朝が来た。天気も良く、川の流れる音がとても気持ちが良いものだった。昨夜は楽しかったと思い出しながらお座敷へ向かった。これはまた、朝から豪勢ですこと。さすがに旅館の朝食は家とは違って変わる。そう言えば、昨夜大量のお酒を飲んで非常に楽しそうに酔っていた白石先生の姿がない。あんなに楽しそうに、生き活きと会話を弾ませる先生を見たことはない。なるほど。

昨夜の疲れがどっと出たのであろう。先生は出発ギリギリまで寝ていたいそうだ。先生の分の朝食がもったいない。頂いてしまいたい気持ちでいっぱいだった。

長湯を探検

AM10:00. 一行は一階の玄関前に集まっていた。昨夜は何事もなかったように先生は登場する。本日の日程は、朝から御前湯に入浴というスケジュールで始まる予定だった。しかし、昨日のラムネ温泉の入浴で、相当の体力を消耗した女子陣はもう温泉に入る気力がなかった。大丸旅館の人と精算を済ませると、先生は温泉に入る時に使うタオルのことを気使い、女将さんからタオルを何枚か頂いて下さった。別れ際に、女将さんは休みだなんだかんだとおしゃっていた。よく意味が分からなかったが名残惜しい気持ちで旅館を後にした。

大丸旅館の近くに御前湯は位置する。歩いて2・3分ぐらいだ。到着すると、入り口に「本日は休館日」のたて看板が置いてあった。そこで白石先生は私たちに御前湯を肌で触れて欲しいという願いからであろうか、休館日にも関わらず、館内に入り何やら交渉をしていたみたいだった。長湯に来て、改めて白石先生の熱心さが伝わった。女子陣は思いがけない展開に心弾んでいた。そう言えば、女将さんがおしゃっていたのはこのことだったのか。と今になって気付かされたのだった。予想だしていなかった出来事により日程変更を余儀なくされた。

AM11:30分まで学生達だけで長湯の町を探検した。町の中心位置に建ってある「温泉市場」にバスを停めて私たちは歩き出した。町並み、建物、雰囲気を楽しんだ。観光案内所に入り、現在地および地図を確認した。事前学習で何度も聞いた「ドイツ村」の位置を見つけることができた。距離はあまり近くないが歩いて行けるのではと思い、ドイツ村を目指した。地図を頭に入れひたすら歩いていった。長湯からどんどん離れていくのが分かった。時間も残り少なくなったため仕方がない。引き返すこととした。

翡翠の庄

時間通り、バスへ戻った。先生にどこまで行ったのかと聞かれ「ドイツ村を目指したけれども行けなかった」と答えると、「あれは遠い、歩いて行けるところじゃない」と笑っていた。そして目的地は翡翠の庄へ。

首藤勝次さんの弟が館長であるという翡翠の庄。大丸旅館とはまた違った造りである。翡翠の庄では、個室、個人の空間を重んじているのが分かった。ゆったりと時間を過ごすことができそうだ。

ドイツ村

翡翠の庄の見学を終え、いよいよお待ちかねのドイツ村へ。移動時間は短かった。

さあ到着。あれっ。と思うぐらいに村は活気がなかった。どこかの「オランダ村」みたいにお店があるのではと想像していたからだ。ドイツ村は建物・庭の創りがドイツ風という宿泊施設だった。体育館・グラウンド・自炊のできる台所まである。ほほう、部活やクラブや子ども会などの合宿が適している。こんな大自然の中で合宿なんて素晴らしいなあ。うらやましいなあと思った。

久留米へ帰ろう

これで長湯調査が終了した。しかしながら、大学までの道のりは長かった。久住・阿蘇・黒川とドライブを兼ねて戻った。久住・阿蘇の広がる景色には一同心を奪われた。

帰りのバスは行きのバスと違って静かであった。長湯調査を行うにあたって、事前学習や話し合いで何十時間も費やした。どっと疲れたが出てきた私たちは深い夢の中へ誘われていった。お疲れ様でした。

この時、翌日からの調査のまとめにおわれることは誰も知る由もなかった。

2 面接調査

長湯地区の名望家であり、町おこしのリーダーである首藤勝次さんに面接をおこなった。なお、首藤勝次さんは大分県会議員であり、公人であるので、実名を記載した。面接の結果は長文になったので、別添え資料として末尾に掲載した。

面接記録の訓練として、テープレコーダーによる記録のほかに、個々人でメモをとるように指示し、後に相互に参照して、メモのとりかたにおける個人の癖を発見させるように仕向けた。さらに、テープおこしをさせ、自らのメモと実際のズレを実感させた。

テープを原稿化するさいに、見出しをつけるように指示した。むろん、被面接者の語りには見出しはついていないが、面接内容を理解するための技法として見出しをつけさせることにした。見出しつけには、もう一つの訓練効果を狙った。話ことばを書きことばに転換することである。別添え資料の見出しは学生がつけたものである。

3 「一枚の写真」の撮影

全員にデジタルカメラを手渡し、写真をとるように指示した。そのさい、必ず地域を歩くように指示した。さらに、そのなかから一枚を選び出し、コメントをつけるように指示した。一人で撮影しても、グループで撮影してもどちらも可とした。学生の自発性を期待したからである。

「一枚の写真」のねらいは二つある。第一は、写真を撮ることで、対象を意識化させるためであり、第二は、学生の自由な視点で写真を撮り、そこから一枚を選び出すことで、自由裁量の行動を導入するためである。そのため、写真撮影においては、必ず自らの足で歩くこと、自らの感性で写真を撮るようにアドバイスした。

第3節 事後学習

1 礼状の作成

礼状は調査を総括し、社会調査の基本である調査協力者への礼意を示すために、調査初心者にはとりわけ有効な訓練である。実際は、多少は文章力のある学生を指名して、礼状を作成させた。

礼状は社会的儀礼と文章力を学ばせるために、2回、書き直しをさせた。この記録が資料である。当初はワープロソフトに付随した手紙文例集を引き写したような文章だった。3度ほど書き直させると、礼状が調査協力者とのコミュニケーションであることを学習できるようになった。

(資料)

(1) 礼状の書き直し記録

・最初の礼状

『秋の訪れを感じる今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか？

先日は、お忙しい中私達の調査にご協力いただきありがとうございます。

また、貴重なお話をお聞かせいただき大変勉強になりました。

大丸旅館という、学生では泊まることが出来ないような旅館に泊まらせていただきました。

旅館では、食べたことのない料理や初めて体験したラムネ温泉など、学校では体験できない経験をさせてもらいました。

このような素敵な旅館があるということを知り、全員がまた訪れたいと思いました。

これから、首藤さんや直入町、大丸旅館で学んだことをもう一度振り返り、将来に役立てていきたいと思っています。

このたびはまことにありがとうございました。

心からお礼申し上げます。』

• 先生からの指導内容, 注意点

☆何を学んだかを的確にかく。2, 3個かくこと。なるべくストレートに。

☆旅館に書くのではなく, 首藤さんに書くことを意識すること

☆首藤さんが話したことを项目的に書く

☆調査から日にちが経っているので, 何の手紙かを明らかにする。また首藤さんは忙しい身であるので最初に名前を入れる。(見てすぐ理解できるように)

☆上の内容を忘れないようにして, あくまでもお礼状ということのを忘れないようにすること

☆ビジネス型の文章にしないこと。

☆手書きするのが大切。

• 書き直し①

『久留米大学文学部情報社会学科2年の田島希梨子です。

現在, 学んだことをまとめる作業を行っています。

お忙しい中, 貴重なお話を聞くことが出来ました。

町おこしに限らず, 異文化に触れること大切さを知りました。たくさんの人に出会うことは, 多くのことを学ぶ大切な機会だと強く感じました。首藤さんの話を聞いて, 私は自分の生まれ育った町に誇りを持っているのかと考え直しました。町のことを考えたりすることは, とても大切な一歩だと思いました。

生活の中に潜んでいる大切なものを見つけられるように, 周りに目を向けたいです。

旅館ではラムネ温泉にとっても感動し, 料理がとてもおいしかったです。

また新しい発見を探しに, 直入町を訪れたいと思っています。

ご協力ありがとうございました。』

• 先生からの指導内容, 注意点

☆首藤さんがおっしゃった言葉を文章に使う

☆名前のあとに, 調査を行った日付を入れること

☆首藤さんの話に対する感想, 気持ちを素直に書く

☆旅館や温泉の感想を短く入れる

☆印象に残っていることを書く

☆また来るという意図の文をさいごに入れる

• 書き直し② (実際の手紙)

『私は, 久留米大学文学部情報社会学科2年の田島希梨子と申します。平成18年9月19, 20日と2日間, 大丸旅館でお話をお伺いさせていただきました。

現在, 学んだことをまとめる作業を行っております。お忙しい中, 貴重なお話を聞くことが出来ました。

私が一番印象に残ったのは, 「ストーリー性」を大切にすることです。

ストーリーを持たせることで, 目に見えるところだけでなく深い部分まで目を向けることが出来るのだと知りました。

また, 20歳のころ自分の町について漠然と考えをめぐらされていたことに驚きました。私も少し考えてみようと思いました。そのような小さな一歩が「何を伝えるべきか, 残すべきか」を正しく理解する訓練だと思います。

旅館では, ラムネ温泉に初めて入り, とても感動しました。料理もとてもおいしく, 楽しく過ごすことが出来ました。また楽しい発見を探しに直入町を訪れたいと思います。

ご協力ありがとうございました。』

・礼状を書いた感想

礼状だからといって、単にお礼を書くだけでは駄目である。だからといって、そのことばかりを意識していると何を伝えたいかがまとまらず、理解しにくくなる。また、ビジネス型になると文章が硬くなる。あくまでも学生らしさを大切にすることを学んだ。

礼状を旅館に書くのか、首藤さんに書くのかではかなり大きな差である。首藤さんに書く場合は、須藤さんから聞いた話の内容を練りこんでいくことで中身のある礼状が書けることがわかった。そして手書きにすることで、忙しい身の須藤さんにも手紙を読んでもらえる確率も高くなる。最初の手紙は、まったく内容が浅かった。3回目書いたものは、だいぶ中身のある文章が書けていると感じた。

2 調査報告書の作成

調査を概括し、公のものとするために調査報告書を作成した。報告書の内容は次章で触れるのでここでは、表紙のみを資料として掲載した。なお、資料にみるように、表題が調査報告書としては異質ではあるが、学生による作成を尊重し変更の指示はしなかった。

3 合同発表会

合同発表会に向けてスライド原稿を作成させた。

第3章 学習成果の分析

第1節 動機づけ

学生による評価のために、「振り返り表」を作成し、記入させた。なお、評価はまだ尺度化に至っておらず、対象学生数も少ないので、個人の記載をそのまま資料とした。文頭の記号はそれぞれの学生を表す。学生が記載したのでそのまま記載した。

1. あなたは社会調査自習演習のグループをどのような理由で選びましたか。それはあなたにとって興味のあるものでしたか。

♪グループを選ぶ理由として、現地に行って実際に体験したかったというのが最大の理由である。私にとって、長湯温泉を調べたことで町おこしがどのように行われ今に至ったかなど大変興味のある内容だったと思う。

☆温泉に行ける。

◆将来、(スポーツ)ライターになることが夢なのでスポーツに強い白石先生のゼミに惹かれてこのグループを選んだ。選ぶ前に提示されたこのグループの内容で、新聞記事等の要約実際に温泉地を訪れてインタビュー・現地調査をするという内容が自分の就きたい職業に近い内容だと感じ、興味のあるものだった。

○温泉が好きで興味があったので選んだ。現地に行って調べるということだったのでとても興味が湧いた。

▲調査のテーマである「温泉」がとても面白そうで興味があったので。

第2節 KJ法

KJ法の学習効果を3点で測定した。

(1) KJ法の目的と方法を他者に説明できるか。

KJ法を他者に説明できれば、KJ法について概略と使い方を把握できたといえよう。

(2) KJ法は役立ったか、役立たなかったか。

学生の主観的観点からKJ法を振り返らせた。特に、重要な点は役に立たないといふ事柄である。役に立つ点は説明書や教員の説明をそのまま写せばよい。役に立たないと感じた点こそが、KJ法を実践した実践者の観点である。そのような観点を獲得できたか。

(3) KJ法への関心

調査技法は学生の興味関心とはべつものである。しかし、実践的には学生の興味を引かねば、実際の使用にはいたらない。そこで、興味関心の度合いを調べた。

KJ法の目的と方法を簡単に説明できますか。できる範囲で説明しなさい。

♪KJ法とは、まずテーマを決めて、それに関する単語や言葉をカードに一つずつ書き出す。その単語から連想される質問を書き出す。出来るだけ思い出すことをすべて書く。そのあとから小さなグループに分けていく。それらのグループに題名をつける。さらに出来たグループで似たものがあれば近くに置く。また近くに置いたものを合体させたものにも題名をつける。作業を繰り返し最後にすべてのグループが一つになるようにする。そこにもテーマをつける。

☆目的：情報や事実を収集する。

方法：ちいさな紙切れに情報一つ一つ書いていき、それをグループに分けていく。

◆まずテーマから連想されるイメージ(質問)を複数(グループ)で出し合う。次に出し合ったイメージから全体から考えられる質問の題目を決める。そして、イメージを細かく分類しその一つ一つのグループを表すような題目をつける。最後に分類したイメージを見直し、それぞれかぶっていないかを確認。質問が適切か適切でないかも見極める。

○テーマについて思いついただけ一枚一枚カードに書き出す。次にそれらのカードを同じような種類に分けて分類し、グループ化されたカードを紙の上に配置して図解を作成する。

▲目的は相手に質問をする時に「YES or NO」問題を避けることができた。方法は、まず、思いつく質問をいくつも書き出す。次に、書き出した質問の文章をよく読んで内容が似たようなグループに分ける。そして、グループごとに大きな質問の題をつける。この時のポイントは大きな質問の題をつける時に「～について」としないということだ。同じような作業を繰り返して、最終的に、一つの大きな質問の題になるのだ。

KJ法は役に立ちましたか。役に立ったのはどのようなところですか。また役に立たなかったのはどのようなところですか。

♪インタビューの内容を漠然と考えるより考えもまとめたり、色んな意見も混同しなかった。役に立たなかったというよりも、時間がかかった。グループに分けるときのグループに適切かわからないものでもあったので、その点では不便だった。

☆ 質問することをうまくまとめたところは役に立ったと思います。

◆今回、実際にKJ法を使って役に立つ方法だと感じた。それは、グループでの話し合いを進めていくうちに質問の質が上がるし、全員の意見を質問に反映できるからだ。あと、はじめの段階で質問全体に題目をつけるので質問の方向性がしっかりとするし、各質問にも項目がついているので流れが組みやすいという利点もある。逆に細かい分類が曖昧になりやすいところや非常に時間がかかるという側面もあった。

○首藤さんへの質問を考える時に使った。実際には、聞き取り調査の形で行われなかった為、KJ法をうまく使うことができなかった。

▲約に立った。KJ法により、質問の順番まで決めることができたので。

KJ法の手法や方法に興味がありましたか。それはどのようなところですか。

♪小さな考えや意見でも他の人の情報を知ることが出来る点に興味があった。

☆あまりわかかなかった。

◆KJ法の魅力的なところは行き詰まりが起こりにくいところではないかと思った。まず質問全体におおまかな題目をつけ、似たもので細かく分類し、それぞれにまた題目をつける。一見、面倒な作業だが関連した新しい質問を思いつきやすく、また付け加えやすい。しかも、流れが組みやすいのだからまさに 至れり尽くせり である。

○バラバラな質問でも KJ法を取り入れれば、流れにそってスムーズな質問を考えられるということに興味があった。

▲いくつもの質問が最終的に、大きな一つのタイトルでまとめることができたのが面白かった。また、タイトルを決めるときによく「～について」とつけがちだが、それ以外に考えるのが難しかった。この作業により、質問を作るという作業がいかに大変で、面白いということが分かった。

学生の評価はKJ法はやたらと時間がかかるというものである。「この作業により、質問をつくるという作業がいかに大変で、面白いということがわかった」という記述を読む限り、質問の質を高める技法であることは理解できたようである。しかし、それ以上ではなかった。さらに、教員の介入が多くなるというデメリットも生み出した。学生たちはKJ法は役立つかも知れないという漠然とした印象を持ったようだ。しかし、KJ法としてはおかしな点もある。過去、現在、未来はよくわからないまとめかたであり、ラベルのつけかたである。

第3節 一枚の写真

学生たちの評価を以下に示す。

「一枚の写真」で教員が何を意図しているかが分かりましたか。

♪調査で一番に心に残っていることを写真と一言添えることで、調査を行う前からこのようなことを学ぼうという意識を持つようになるように、という意図だと感じた。

☆分からない。

◆旅を振り返らせることで何が印象的だったか、何に感銘を受けたかを思い出させ旅をより有意義なものにしようという狙いがあると思う。

○無回答

▲写真を説明するのに、自分がどうしてこの写真を撮ったか、そして選んだのかを振り返ることができた。一枚の写真に隠された思いを掘り返す作業が楽しかった。

「一枚の写真」はあなたが現地を観察する上で役立ちましたか。それはどのような点ですか。具体的に書いてください。

♪現地に行って、どの点に注目すべきかを考えるようになった。

☆あまり役にはたたなかった。

◆写真を見直すことで、どこに行きどんなものを見たかを鮮明に思い出すことができた。

○役立った。

▲自分が何にたいして興味を持って行動できたのかよく分かった。調査地を観察する上で、自分が何に興味を持って観察してきたのか明確で、今回の調査は充実していたと思う。

「一枚の写真」の技法を将来、役立ててみようと思いますか。

♪活用してみたいと思った。

☆あまり思わない。

◆写真を辿ることで旅を振り返ることができた。いい方法だと思うので機会があれば活用したいと思う。

○思う。

▲今回、写真の説明をするのに使用したが、写真以外にも利用できると思う。流れ・経緯がいかに大事かというのが分かった。

学生たちは面白かったようである。「一枚の写真の技法を将来、役立ててみようと思いますか」という設問に5人中4人がイエスと答えている。ただ、写真の質とは関係なかった。「活用しない」と答えた学生の写真が最も質が高かった。

第4章 総 括

第1節 学習結果のまとめ

「温泉勝手に応援隊」の実践は、初学者を対象とした社会調査士養成カリキュラムの構築にどのような意味をもつだろうか。暫定的であるが、いくつかの課題を指摘して、一応のまとめとする。

1 動機づけ

予想されたように初学者を対象とした「社会調査実習演習」においては、動機づけが最大の課題である。興味関心を引き出すことができれば、それだけで成功と言ってもよい。しかし、私の「温泉勝手に応援隊」では、学生の自由意志によるテーマ選定ができなかった。参加意欲が低かった。このことはとりわけ資料検索に現れた。自主的な資料検索を期待したのだが、学生は強制としてしか受け取らず、終始、指示待ちであった。

2 調査技術を取りだすのは一定の効果がある。

「面白かった。でも何も覚えていない」が授業でないように、興味関心の引き出しだけでは、社会調査の学習とはいえない。とりわけ、実践力の養成を目指す社会調査士養成カリキュラムにおいては、調査技術の習得が学習の眼目でなければならない。

しかし、通常社会調査では、このことが自明視されるあまり意識して調査技術を取り出すことはしない。しかし、初学者にとって、何もかもが未知であり、調査技術を学習対象として切り出し、技術の学習として意識化させたほうが納得されやすい。KJ法と「一枚の写真」はそのために有効な調査技法であった。ともに簡易で実践的であるからである。

3 学習ポイントの明示と繰り返しはメリットとデメリットがある。

カリキュラムは装置と割り切って、学習ポイントを繰り返し明示した。しかし、このことが煩雑さを招くとともに、説教的な印象を学生に与えた。説教的な教員の構えは、学生たちを受身的

にした。教職担当者という教員の個人的な性癖がデメリットとして現れた。

4 領域横断的な社会調査では、教員の専門領域と調査対象が一致しないことがある。

私のグループでは私の専門領域と調査対象が一致しなかった。「社会調査実習演習」は初学者用の学習モデルの提示と割り切ったが、あぶはちとらずであったことも歪めない。受講者である学生側の問題ではなく、教員組織の問題である。

第2節 大学におけるフレッシュマン教育へのインプリケーション

本稿は初学者向けの社会調査士養成カリキュラムの構築に関わるものである。しかし、そこには現在のほとんどの大学が取り組んでいるフレッシュマン教育に通低するものがある。詳細を述べる紙幅がないので、いくつかのインプリケーションを記す。

(1) 学生の動機の多様化を、学生の動機の低さとして捉えるという錯覚がないか。

非ブランド大学においては、大学全入に近い状況となった。そこで大学教員はこぞって入学者の動機の低さを嘆く。しかし、ほんとうは入学者の動機の多様化がおこっているのではなからうか。これまで専門学校などに行っていた層が、大学入学者となっているのではないか。就職などの現世利益的な動機を大学の教養主義にどう振り向けさせるかが課題ではなからうか。

(2) 教員が自己の専門領域にこだわっていないか。

「温泉」は私の専門領域ではない。専門領域でないものをおこなうのは苦痛でもあるし、負担も大きい。しかし、大学全入の現在、入学志願による動機の選別が弱まった以上、大学の教員は自己の専門領域を超えたフレッシュマンの学習機会の提供をせねばならなくなっているのではないか。

(3) 学生に不足しているのは、基礎日本語力、とりわけフォーマルな他者とのコミュニケーション力ではないか。

KJ法や礼状をみて感じることは、公的なコミュニケーションのための言語能力が低いことだ。チャットやおしゃべりなどの水平的な言語能力は高い。しかし、それが公的なコミュニケーションや論理的理解となると、とたんにおかしくなる。世界を論理的に捉えるための日本語力が不足しているのではなからうか。

付記 本研究は、平成16～18年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））「社会調査士養成カリキュラム開発のための領域横断的実証研究」（研究代表 鈴木廣）による研究成果の一部である。

白石先生と行くぶらり 長湯旅



～勝手に温泉応援隊～

平成 18 年 9 月 19～20 日

(隊長) 白石義郎

(隊員) 宮地央士

古賀 綾

田島希梨子

三股範子

内山早百合

KJ 法

過去

☆首藤さんと長湯のあゆみ

- ・町おこしのために総額費用はいくらかかったのですか？
- ・町おこしは町民全員が賛成したか。町民全員の意思か？

☆首藤さんの過去について

- ・首藤さんが 20 歳のころ町おこしについて考えていましたか？
- ・子供のころの夢は？

☆直入におけるドイツの存在

- ・ドイツのどのようなところに惹かれましたか？
- ・なぜドイツに注目したのか？

現在

☆直入の財政状況

- ・どのシーズンに一番お客さんが来ますか？
- ・直入の景気はどうですか？
- ・今、直入は赤字ですか？黒字ですか？

☆来客数の移り変わり

- ・リピーターのお客さんはいますか？
- ・お客さんは増えていますか？

未来

☆今後の挑戦

- ・お客さんは、高齢者が多いようですが、若者向けの施設を作りたいと考えたことはありますか？
- ・温泉以外のアピールに挑戦しないのか？
- ・今後新たな温泉地を開拓していきたいですか？
- ・直入町をどのような町（地位）にもって行くのか？
- ・大丸旅館を今後どのように受け継いでいきますか？
- ・直入町のここをさらに変えていきたいという点がありますか？
- ・今後新たな挑戦はありますか？
- ・首藤さんにとって町おこしとは何ですか？

☆お客さんを確保するためのアピール方法

- ・宣伝は他の温泉地のように大きくアピールしないのですか？
- ・直入温泉で一番のセールスポイントは？
- ・直入町へお越しになるお客様をどうやって確保しているのか？
- ・温泉以外でアピールする点は？
- ・長湯温泉の効果はありますか？

「一枚の写真」 総集編



この写真を選んだ理由

直入町のワインは今では全国的に有名になり、このワインを求めて直入にわざわざ買いに来る人もいるほどだが、以前はドイツでは門外不出のワインだった。このワインの目をつけた首藤さん達は五年もの努力が実り、平成六年のついに直入町に上陸した。「大切なのは自分が見ているものにどんなストーリー性があるのかを知るべき」と首藤さんはおっしゃった。この写真にはまさに直入町が町おこしに成功するまでのストーリーがあるものだと思います、この一枚を選んだ。

写真・文 古賀綾



☆写真を選んだ理由

このガニ湯温泉は、直入町に行く前からテレビなどで拝見していました。しかし、実物を見てみると本当に、どこからでも丸見えの露天風呂で驚きました。実際、温泉まで降りてみましたが温泉の色は見たことのないような濁った色でした。温度も低くて本当に入れるのかなと感じるほどでした。

直入町に来て、最初に驚いたということでこの写真をベストショットにしました。

☆ この写真を撮るまで

先生の案内で、直入町を探索しました。まず、大丸旅館のすぐ横にある飲泉場を訪れました。そのあと、2分ほど歩くと川沿いにガニ湯を見つけました。降りる場所は、先生が知っておられたので迷うことなくどり着きました。しかし、降りるところは、なかなかの傾斜になっていて、雨などが降った後はすべりやすそうでした。そして、ガニ湯に実際触ったりしました。すぐ後に、男性が入浴していました。

写真・文 田島希梨子

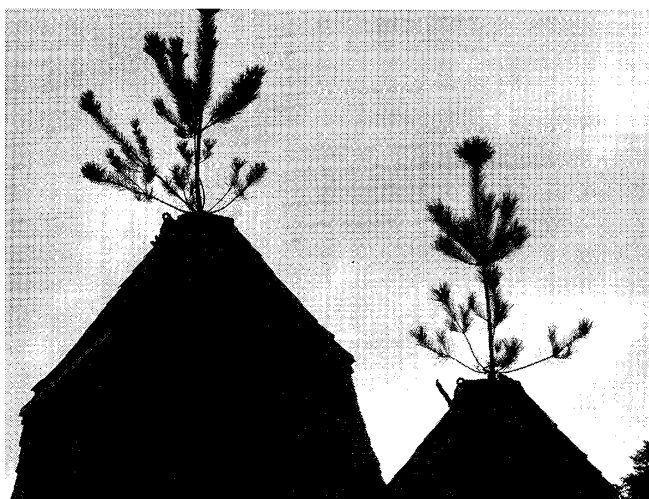


この写真を選んだ理由

がに湯にて撮った1枚。

実際にがに湯に入ることはなかったがこの写真が温泉らしく、またなにより長湯らしい1枚だと思ったのでこれを選んだ。

写真・文 宮地央士

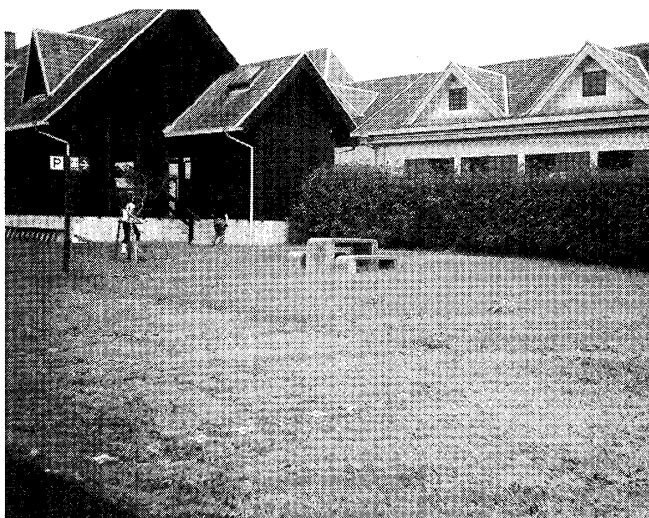


この写真を撮るまで

これはこの写真は、長湯に着いてからいったん部屋に荷物を置いて首藤さんにお話を聞いた後、ラムネ温泉などの行く道を先生に案内してもらう為に、みんなで歩いて向かっている時の写真です。これは、ラムネ温泉の天辺です。どうやって育っているのか不思議に松の木です。

これを選んだ理由は本当は松の木を撮ろうとしていたわけではなくて、松と松の間に蜘蛛がいたので撮ったんだけど、なかなか全体的によく撮れたので選んでみました。

写真・文 内山小百合



☆この写真を選んだ理由☆

西洋の建築物に心奪われた。普段、日常生活から見ることのできない建物・庭から、ここが日本であることを忘れてしまいそうな程だった。異文化に触れるということで何か刺激をもらえた気がした。首藤さんのおっしゃった、「異文化に触れることで、いかに気付きが大事か」ということを肌で感じ瞬間だった。この感動を一枚の写真に残すとする。

☆この写真までの道順☆

一時間の長湯散策（生徒達の次湯行動）が終わった。旅先案内所の地図にて、「ドイツ村」を見つけ、歩いて行こうとした。しかし、歩いて行けないとことが判明し、引き返した私たち。バスでドイツ村へと向かった。村へ到着。バスから降りると、ここは日本と思えないくらいの西洋の建築物が私たちを待っていた。

写真・文 三股範子

首藤さんメモ

内山 早百合

大切なものを30年あなたたちより先に走ってきたものとして・・・
気づきが大事。自分には分からないとらえ方。これをとらえられない人はどこにいても駄目。
1989年 平成元年にドイツのバードクロツインゲン

変化が起こる時、地球規模で変化が起きるんですよ。

年間80万人 元気よく伸び続けていて、交流人口が伸びている。佐渡島は135万人だったが年々下回っている。そんな中こんな小さな長湯が元気よく伸びていき、ついには長湯と逆転した。その地域のある文化を大事にすることがこんなにも将来に影響がある。他と違う視点からスタートした。

ドイツでの体験でショックを受けたことがある。おとぎ話のような町

飲泉・カルロスバードは新鮮な野菜を飲むより健康になる。

貧しい社会環境の中、残すべきものをきちんと分かっている。

日本人は大事なものを残す努力をしたか。

何を伝えつぐことができるか

日本屈しの女性の建築士のとみたれいこさんが御前湯の建築をしてくれた。わずか4千万円で作った。

夢、人脈があったからこそ建ったもの

「ストーリー性」・・・ピイトンのバックの例 タイタニック

こういうことを日本人は分からなかった。

すばらしさはビルの大きさではなく、銅版のメッセージなどの力の強さに目を向けてほしい。

その地域の人とその地域を誇りに思い、その人がうらやましがり（あこがれる）のが絡み合い、地域が育っていく。

本来あるものを自分達の身の丈で保存して、伝統を残しておく

「21世紀の観光」・・・日本の観光は広めるだけではなく深めることが大事。

そのもののストーリーを知ること。

ドイツのワイン・・・「旅をしないワイン」といわれているドイツにいて現地にいてお願いした。

平成6年に3千本を入荷した。

その時町の酒屋さんが「1年間でこの町のすべての酒屋で消費されるワインの量は何本か知っているか」といわれ「30本」というんですね。「そこに3千本持って帰ってきてどうするの」といわれた。しかし3ヶ月で売れた。現在は1万本入って」きている。

マザーテレサがいていたことに「誰かがやるだろうという事は、誰もやらない」

思いついたことはあなたがやるべき。

町全体に魅力がなければならぬ。

最初は賛成してくれる人などはいなかった。そんなことにとらわれぬでやる。時代がつきて、あとで人々がついてくる。

次の世代にやくだつ人たちを育てていく。

逆風の中でその逆風をかかえて天高くあがることができるか。

自分ができないからといって悔いを残すことはない。

いずれ子が引き継いでくれる。これが夢を託すということ。

首藤さんメモ

205AD13 田 島 希梨子

首藤さんは、まず異文化について話をされた。異文化に触れること、すなわち気づきに触れることである。そのためには、きちんとした、感受性を持つことが一番大切なことである。

この話は、直入町の町おこしには欠かせない「ドイツ」に関連している。直入町は、1989年にドイツとの交流を始めた。首藤さんは、このドイツとの交流を「歴史的時のめぐり合い」とおっしゃった。それから、直入町は温泉地として奇跡的伸びを記録した。数字で言えば、直入町を訪れる人は7万人から80万人に増えた。それは、このときに衰退していた温泉地にしては奇跡的なことであった。

さて、直入町はどのようにして町おこしに成功したのか。ポイントは、ドイツとの交流の成果である。ドイツの特徴として、温泉の力、歴史、文化を大切にするという点がある。

ドイツ交流のテーマは、国際的視野にたった温泉地作りにした。

このような温泉地作りは他の温泉地作りとは、違ったスタートである。

次に、ドイツ交流でショックに感じたことを話された。ドイツの温泉地で欠かせないのは、なによりも健康のために飲泉大切にしていることを初めて知ったことである。ドイツには、飲泉場が当たり前のようにあった。先人たちの存在を大切にすることで、「残すべきは何か、伝えるべきは何か」という大切なことに気づかされた。

そして直入町の一番大きい温泉、御前湯はすばらしい温泉館である。御前湯は、小さな町の芸術として、志を同じくする人や人脈により建てることが出来た。ルイヴィトンのお話のようにすべてのものは、ストーリー性があることが大切であることも、この町づくりにより学んだ。

首藤さんは、町づくりで生活空間に潜んでいる小さなことの強さ、大切さを知った。

長湯温泉は、まず直入町の人々が温泉を誇りに思うことで、他の地域に住む人々がそれをうらやみその2つが会うことで町おこしにつながったと考える。今の温泉地などは、自分のもの、誇るべきものを忘れてしまったため結果が出せないのである。考えを間違わなければ、町おこしは成功するのだ。首藤さんは「将来のことを広げるのではなく、深めることだ」とおっしゃった。表面を見るのではなく、中を見るのがこれからの将来につながる。

マザーテレサの言葉で、「心の中を実現すること。誰かがやるだろうことは、誰もしない」これがドイツを訪れた首藤さんの心に響いた。

新たな挑戦として、長期滞在の施設を建設している。設計図にも取り掛かっている。もうひとつに、飲料水売り出すことである。長湯温泉の水は、血糖値を下げる働きがある。

そして、首藤さんは最後に「みなが楽しめるもの。人、世の中、時代、経済がついてくるものを作る。次の時代に残せる。次の時代に残せる、目標を持ち続ける」ことをおっしゃった。

☆質問

20代のころは、町おこしについて何か考えていましたか？

ギャンブルばかりやっていました。漠然と直入町をこうしたいという考えは持っていた。

首藤さんメモ

宮地 央士

まず初めに若い人たちに伝えたいこととして、多角的視野（つまり、物事を1つの方向からではなく様々な視点から見ること。）に触れることの重要性と感受性を高めることの重要性を述べられた。後者が述べられたのは、感受性を高めることで色んなことに興味・関心を抱きそこから出会いや発見などに繋がることが多いためだ。

○次にドイツとの出会いと直入町の成長について。

1989年のベルリンの壁崩壊時にドイツとの交流のきっかけを作り、当時の交流人口は73万人だった。ドイツとの出会いで「温泉の力」を知り、直入町の町おこしをする際、「国際的視野に立った個性的な温泉地づくり」というテーマを掲げる。

さらに外国（ドイツ等）の温泉地視察の際に「飲泉」と出会い、飲泉を温泉の個性、つまり温泉地のウリとすることを心に決める。外国の視察では地元の人々との交流もあり、貧しい環境地でありながらも先見性に優れた物の考え方や町づくりを目の当たりにし「発想」を養うことで見えるもの（人との連なり大切さや夢を追えることが成果に繋がること）があることを学ばれた。

直入町は現在17年間の間に交流人口を10倍にするなど成長をみせている、その根底にあるのは利益目的がスタート地点でないことのようなのだ。これは前文の話とも重なるが先見性があることその直入町の「振る舞い」だろう。

○ルイヴィトンの話との出会いについて

超一流のものにはそれにふさわしいストーリーがあることにヒントを得て、直入町のもつ歴史や文化を大切に育てることでストーリーを浮き彫りにするまでに発展した。

ストーリーを浮き彫りにすることで自然と町に風格をだし、「あの町に行ってみよう」といったような憧れを持たせるように仕向けるのが狙い。

歴史や文化を安売りすることの愚かさはたくさんの失敗例からみても明らかで「観光地を広めるのではなく深める」という言葉で勝次さんは表現された。

他にも「ストーリーを大事にすることで個性を知る」という言葉も頂いた。

○最後に

これからの直入町の目標は新しいストーリー作りで、飲泉の市販も計画されている。

飲泉の販売によって得る利益は町づくりに生かされる予定だ。町に根付いた町おこしを核として町おこし（づくり）は続くようだ。

歴史や文化を残すことで次世代を育てストーリー作りを続けることで直入町は発展している。

首藤さんメモ

古賀綾

今まで生きてきて、色々経験してきた中で、「気づき」「ふれることの大切さ」を学んだ。

1989年（平成元年）にベルリンの壁が崩壊した。この年は、世界中の人々の人生の転換期、変化の時期と思っている。当時直入町は人口2850人だった。ドイツの地を踏み交流のきっかけを作る。その結果、一年間の交流人口が7万人から80万人に増加した。10倍以上である。これは全国的にも類を見ない、寒村の奇跡である。なぜこのような現象が起きたかという、自分達のすべきことに気づいたからである。ドイツの人々は文化や伝統を大切にしてきた。また、温泉の力で病気から体を守ってきた。

マリアンバードは温泉を飲むことができる（飲泉）。飲泉は野菜を食べる以上に健康作りに良いとされている。ドイツは住民が努力をし、政府がドイツの素晴らしい建物や文化を保護してきた。では、日本ではどうか。政府はもちろん、住民が未来に受け継いでいこうと努力してきたか。未来に残すべき建物を作りたい。大切なのは自分が見ているものにどんなストーリー性があるのかを知るべき。日本は目に映るものだけに惹かれ、歴史や文化をそぎ落としてきた。そこで、歴史や文化を残す為に直入町に建設した建物には、建設に携わった人々のメッセージを銅版に刻んで残してある。この銅版は一つ三万円するが、千年もち、人々に受け継がれていくだろう。「この町にはこんなストーリーがあった」これを私達が伝えていくと、ものすごい大きな力になる。

目をつけたドイツのワインは門外不出であった。そして五年もの努力が実り、平成六年について直入町に上陸した。それまで、直入町ではワインは年間30本しか売れなかった。30本しか売れないワインを3000本もドイツから持ち帰ってどうする、など批判を受けたが、わずか三ヶ月で売切れてしまう。

今後の新たな挑戦として町に小さな図書館や長期滞在施設を作ること、そしてラムネ温泉水を商品として出すことを考えている。ラムネ温泉水はマグネシウム、ナトリウム、炭酸ガスのバランスにより、インシュリンの感受性を高める効果がある。これを世に出すことが次の指名。この商品で120円の利益を得たら、そのうちの20円は町の為に使う。

本物の仕事をしていれば時代、人々、経済がついてくる。産業は連なる。そしてどんな人であっても学ぶことができる。

首藤さんメモ

205AD21 三股 範子

異文化をふれて気づきがいかに大事かを知ったのです。受け止める力を大きくすることによって一つの収穫があるのです。異文化に触れ、温泉の持っている力を知ることができたのです。平成元年（1989年）ドイツとの交流のきっかけを始めました。これによって、交流人口は飛躍的に伸びました。町づくりの効果が現れているのですね。その中で、一番の成果は異文化に触れ、温泉の持てる力を知ったことでして、そこで、『国際的視野に立った個性的な温泉地作り』を目標にしたのです。また、非常に驚いたのは、ドイツは貧しい社会状況のなかで何を残すか、伝えたいものは何かというものがはっきりしていたことですね。民族の強さを感じまして、歴史・文化・伝統は未来の力になると気づかされました。私たちは何を次の代の人たちに伝えていくか、残していくかを間違わないようにしなければならないのです。そして、本物の人にならなければなりません。

温泉に入って気持ちいいということだけではなく、知的財産の有地にすることです。『ラムネ温泉水飲用水』を販売することです。味はまるやかで、インシュリンの感受性を高める効果があります。自分の旅館だけではなく、長湯の町全体の魅力があってほしいです。自分がやっていることが、いかに社会に貢献できるか、そして、今の力が心豊かな人になっていくことで、結果として時代がついていくのです。ものの考え方として、天高く舞い上がるためには、「逆風の中でしか風は昇らない」わけですので、「できなかつたと思って悔いは残すな。次の時代にたくせると思え」越えていく自分こそが、人に出会う価値を教えてくれるのです。マザーテレサの言葉にもありますが、「誰かがやるだろうと思うことは誰もしないということを知りなさい」というように、思いついた人が行動を起こしなさい。

☆20歳の頃の首藤さん

今のおかみさんと同棲をしていました。遊びもしていたなかでも、常にふるさとで何ができるかと考えていました。国立を受けず同志社大学に入学したことが許せなく、本をたくさん読んでいました。本から、一語、一文、言葉をノートに書き写して、実際に体験することで、あの時はああなんだ。と実感していましたね。若者へ一言、本を読みなさいということです。

☆若者向けの施設は何か考えたことはありますか

若者向けかどうかは分かりませんが、安く、長く、泊まれる、休めれるところを考えています。今考えているのはモーターバイクを使ったりして湯布院とか探検してみたりなど。映画館などの施設を造ろうとは思いません。何か施設があるから、その施設を使わなければならないということではなく、自分の時間が与えられたら何をしたら良いか分かる人間になれば、どこに行っても楽しく生きていけることができます。

首藤勝次さんテープ起こし

はじめに

首藤さん：今日は、今まではどちらを廻って来られたんですか？

白石先生：えっと大学から直接来ました。

首藤さん：あ、そうですか。

白石先生：だから由布院にちょっと寄って来ました。

首藤さん：あ～あそうですか。

白石先生：いわゆる観光化通りをちょっと見せてですね。

首藤さん：見ていただいた方が良いですね。

白石先生：はい。

首藤さん：そうですか。はい。じゃあ、あの、ええっと、今先生からお話がありまして言っただども、あの、私の方からね、今、あの、先生から頂いたテーマというか、流れに添って、あの、少しばかり、あの、それこそ生の声で皆さん方と接する、あの、いい機会ですので、あの、直接、あの、お伝えをしておきたいなあとと思うことをちょっとしゃべらせてもらいますね。もし、あの、皆さんが気付かれたこととか不思議に思ったことなんかがありましたら改めてまた、あの質問を頂ければと思います。

大切なことは

大切なのは、あの、今先生がおっしゃいましたけども、あの、まあ、大した人間であるかどうかは別にして、ええ、まあ、二、三十年間あの、地域の中でまあある意味戦ってきた魅力的な温泉地を作りたいなあとという思いでつっぱしってきた人間が何を経験してきて一体何をどう思ったのかそこらへんをですね、皆さん方にお伝えができれば、まあ、皆さんは今二十歳前後ですか、ええっと、ちょうど私の子どもが今館長をやっておるのが次男坊の24なんですけど、ここにいるのが長男が27、ああ、で、上下、ああ、一番下の子が、ええ、今三年生ですから、まあ、同じような年代で皆さんおられるので、まあ、そうやっていくと皆さん方のお父さんお母さんの年代に私が当たるんじゃないかなあと考えてますけども、ええ、三十年間ぐらひは最低は走ってきた、歩いてきた人間が、あの、思っていることを皆さん方が、あの、聞きになると、ええ、結局は三十年間を一時間でしゃべることではできないけれども、ええ、その中でポイントになるようなことに触れられたら、あの、すごく、やっぱりあの、大きな財産になるかもしれないなあとというそんな想いでね、あの、話をさせてもらいますね。

で、一番大切なのは、あの、私はやっぱりあの、異文化に触れたり外国の方々とずっと交流したり、ええ、知らない土地の方々と出会って、大切だなあといつも後で振り返って思うのはあのやはり気付き。あの、自分が全く気付かない世界のことをああ、こんな人たちはこんな風を感じたのかとか、こういう風な捕らえ方があるのかとかいうのをあの、やはりあの教えてもらうというか触れるということの、あの、大きさ、でね、これを感じない人は誰と会っても駄目です。どこに行っても駄目です。自分の中に受け皿がなくて、感受性のない人間が同じものを見てもね、あの、凄く力のある人が同じ年代でも良いですよ。物凄い興味があって、あの、凄い感性を持っている人とへえそうなの。それがどうしたの。っていう思う人が聞くのとはでは分娩の差が出てくる。とだけ、あの話をしときます。それは皆さん方が二十年間なら、二十年間の間に、本当に物を見て感動したのか、自分の体に食込まれたその遺伝子に、あの、火が灯るって僕はいうんだけど、あの、それぞれ皆さん物凄い可能性を持っている遺伝子を体内取り込まれてい

るけども、その遺伝子が目を覚ます機会が多ければ多い人はすっごく受け止める力が膨らんでるっていうことにいずれ気が付くでしょう。で、そういう自分であるのかないのかっていうことを知るバロメータとしてでも今日の私の話を聞いて何か思うことがあればそれも一つのまたの収穫かなあと、あの、思っていますね。

長湯と佐渡の金山

で、実はあのこの小さな長湯温泉が、ええ、1989年平成元年にドイツと交流を始めた。ちょうど1989年というのは、ベルリンの壁が崩壊をした年なんですね。ええ、地球でもいろんなことが起こって、あの、人びとの人生の中でも大きな転換期を迎えてるっていうのはね、偶然にも1989年に起こったってことはもの凄く多いですね。で、昨日BSで、あの、『ワンスオンアメリカ』って言う、あの、いわゆる映画史上、あの、三本の指に入るっていう、大傑作と私は思ってます、ええ、十七年ほど前にその映画に出会った時に、もう泣けて泣けてしょうがなかった。この素晴らしい映画を誰が作るのだろうかって。ええ、セルスオ・デュオネか。ああ、監督がですね、あの、大傑作を、あの、ロバート・デニールが主演した映画、あんなのを見てもそうなんですけど、あのセルスオ監督が亡くなったのが実は1989年でね。あの、そう言った意味的では、歴史的なこう、時の巡り合いとかね、あの、変化が起きる時っていうのは非常に地球規模で宇宙規模でいろんなことが起こるんだなあなんていうことをね、あの今静かに私はこう感じております。

実はその1986年に、この小さな人口2000わずか、2850人わずかの町からですね、先人たちの憧れであったドイツの、あの土地を踏んだ。ええ、今ドイツの姉妹都市になっていますけど、バートクロチンゲンという町がありますけども、そこを訪れて交流のきっかけを作ったのがまさにこの1989年平成元年でした。で、その時に、この町の交流人口はですね、一年間に7万人だったんですね。ところが、ああ、十五年、十六年たちまして、ええ、去年の統計では、大体あの交流人口は年間80万人に、あの、達しています。80万人っていうと、この十五、六年間の間に十倍以上の伸びをしめたわけでありましてね。で、だいたい温泉地とかいろんなところが今どんどん、どんどん、あの、まあ、数が多くなって、あの、廃れて逆にこう今下降気味になっているのに関わらず、ぐうっと元気よく伸び続けてきているっていうのは、ほんとに、全国でも、ええ、なかなか例を見ない現象であるなあっていうことで、まあ外からの人がまさに寒村の奇跡であるっていう風に言ってくれるぐらいに、ええ、交流人口が飛躍的に伸びた町なんですね。で、これはね、あの、ブームに乗って、あの伸びたわけでは何でもなくて、やはりそこにはきちとした町づくりの挑戦があってそれが一つひとつのドラマを生んで感動を生んでそして成果を生んできたからこそ今この町にですね、それだけの成果が与えられているっていうことなんですね。で、うん、80万人っていいますとね、ええ、佐渡島があの、十か町村ありましたが一つになりましたけども市町村合併で。

あの、5年前、佐渡の炭鉱が危ないという私はあの、大シンポジウムやるっていうかね、きちよこいに言ったんですね。そしたら、佐渡島の一番大きな、あの、アミューズメントホールにですね、千人を超す島人が集まって、立見席も、ああ、立ち見の人もでて、すっごいこれは民さん危機感を持っているなあとと思ったんですが、その佐渡島が、ええ、最高の交流人口を記録したのが、ああ、135万人だったんだそうです。ところがそれがぐんぐんぐん落ちてきて、ええ、ついには、私が行った5年前は、82万人ぐらいだったかな。今はおそらくもしかしたら80万人きっているかなもしれないなあと考えておりますが。日本の、あの、観光地の中で佐渡島を知らないって人たちは名前は、名前だけでも聞いたことがある人がほとんどだと思うんだけど。その佐渡島とですね、この九州の中の山の中にある小さな人口2850人の長湯温泉の年間交流人口が今逆転

をしたってことを思うと、ええ、何でそんなことになるの。ここに高速道路ができたわけでもないし、ええ、鉄道が走ったわけでもない。なのになんでこういう現象が起きたんだろう。っていうところが実はとっても大切な、あの、ポイントになるので、ええ、そのことを皆さんにお話をしますね。

ドイツに行って学んだこと

で、ええ、ドイツに行った時に私たち一番大きな成果として今振り返ることができるのはまさに、あの、自分たちがやるべきことに気がついた。まさに気付きなんです。異文化に触れて、知らない外国の土地で、そうか温泉の持っている力ってのはこんなに凄いのか。そして、ええ、その地域に育まれた歴史とか文化とか伝統っていうのを大切にするっていうのは、こんなに未来に力を与えてくれるのか。そんなことにね、実はあの気がつかせて頂いた。そして、ええ、その時に生まれたテーマがその地域にこんな小さな長湯温泉だけれども、長湯温泉をこれから先、ええ、国際的視野に立った個性的な温泉地づくりをやっていこうよなというこのテーマがね、びちっと決まったんですね。国際的視野に立った個性的な温泉地づくりというね、このテーマがしっかりと決まりました。今温泉地に出かけると、湯布院もそうですし、また黒川温泉もそうですけれども、皆何からスタートしたかっていうと、何とかして経済的に豊かになりたいっていう思いが先行してしまっただけです。そういう事例が多かったんですね。歴史とか文化とか地域の個性とか国際的に通用するとか、ええ、何を通用させるかといったその視点がですね、全く違ったところからスタートしたっていうのが、長湯温泉の一つの非常に幸運な、あの、道しるべでした。で、このことをですね、あの、教えてくれたのが実は、ええ、ドイツ。

当時私たちが行ったのは、今姉妹都市となっているバートクロチンゲンとそれからあまりにも有名なあのバーデンバーデンという場所。それから、ええ、今はチェコ領に帰りましたけれども、一時ドイツ領になってたカルロビバリーとかね、マリアンスクラークゼネっていうね、今、ああ、まあ、分かりやすくドイツ語カルルスバード、カルルス、カローの温泉っていう意味なんですけど、カルルスバードとかマリアンバードとかチェコの温泉地に巡って、そこで出会ったことが全て私たちの肥やしになった。で、その時に非常にショックだったことをね、今からお話します。で、一番ショックだったのは、あの、チェコの、ええ、カルロビバリーとマリアンスクラークゼネという、もうほんとにね、おとぎの国のようなね、きれいな温泉地です。ええ、最近こそ、あの、日本人が少し足を踏み入れるようになったけれども、今から、ええ、十五年ほど前に、あの、私たちが出かけた時は日本人がその町に入るっていうことは信じられないくらいに珍しいことだったそうですね。で、何でそこに行ったかっていうと、実は、80年くらい前に昭和初期ですが、この町を、あの温泉を訪れてですね、この町の温泉はドイツのカルルスバードとかそのマリアンバードに匹敵をするくらい素晴らしい温泉療養地になれるところだねって言ってドイツの博士が、実はこの町の人たち言ってくれた。そのことのね、あの、縁っていうか、歴史的な接点がね、70年の時空を越えて今の私たちに働きかけてくれたっていうその縁があったんですね。それで、実は、その、マリアンバードに行ったんだけど、そこでね、特に、あの、マリアンバードは、あの、温泉を飲む、カルルスバードもそうですよ。温泉を飲むって飲泉っていうんですね。飲泉効果。温泉を飲むっていうことは新鮮な野菜を食べる以上に健康にはいいんですよという考え方がこのカルルスバードの第一温泉館の館長で今はグラフィックデザイナーで、彼の歴史辞書によれば、大体500年位前に、ええ、ベツヒア博士が今言ったように温泉は野菜を食べる以上に健康づくりにはいいっていうことを提唱した。で、あの、ヨーロッパ中からですね温泉を飲んで健康回復を図りたいという人たちが集まってきたというそういうあの町なんです。二つの町ともね、そ

してそこにはですね、それをあの証明するというか象徴するかのよう、えー実は飲泉場って言って温泉を飲む公共の施設があるんです。で、それがあの、コロナダって言うんだけれども、この1キロぐらい上流に国民宿舎があって、その国民宿舎の前に赤煉瓦の所にですねー、こう小さなドーム型のね、こう屋根がついてる温泉が飲める場所がある。あれはまさにマリアンバードのあのそのその飲泉場のえー小型版をあっこにちょっと持ってきてあっこに据えたんです。設計をそのままこうあの一、まあ模倣したっていうかね。ほんでー、ここの長湯温泉ってのは温泉が飲めるっていうことで、すごくまあ、あの、体に効くっていうことで、あの一、評価を得たんで、でそのことを町の個性にしたいなーということ、でそういう作業を連ねていったんですけども、えー実はそのマリアンバードの飲泉場をコロナダを見ながら温泉をのんで歩いてたらえー、その国の人達がですね私たちに向かって、「あなた達は日本人か、中国人か」っていうんですね。で、「日本から来ました」って言ったら、「経済大国日本から私たちみたいに東諸国で貧しい国に来て、何か参考になることがあるのか」ってこう、尋ねるんですね。それで「いやー、あなたの方が持っているこのおとぎの国のような建物とか、その飲泉っていう温泉を飲む習慣とかいうのはすばらしいものがありますね。」ってそうゆうふう、彼らは何て言ったかという、[あーそうか、お前達は経済大国日本から来て、この建物がすごいというのか。まあそう言うてくれるのは非常に自分達としてはうれしいけれども、これはどうやって維持してきたか教えてやろうか]と言われて、で聞いてみたら、自分達は貧しい東諸国の中であって、自分が食べるパンの半分をみんなでだしあって、結局我慢をして、でそのお金を政府に納めて、で政府が、先人からずーっと受け継いできたそのすばらしい建築群を保存をしてきたっていうわけね。自分達はあのパンを食べるパンの量を半分にしてこの自分達にえー、伝えてくれたあの一、この遺産を未来に伝え継ぐ為に、私たちは努力をしてきたんだって、そうゆう話をしたんですね。

でその時にね、あの一、ものすごいショックを受けたのは、あの貧しい社会環境の中であって彼らはね残すべきは何か、伝えるべきは何かって、これをきちんと知っている民族であるなあという事を、この事を知ってですね、我々が日本人が今公共施設がどうのとか、体育館が何と、何があるとか、橋があるとかビルがあるとか言っているけども、ずーっとあの一ここ5、60年から今に至るまで、本当にすばらしい公共の建築群が建造されてきたかどうか、そして昔からある物を自分達は大事に未来に受け継いで伝え継いでいこうとする努力をしてきたかどうか。このあたりをですねすごく考えさせられた。彼らはやっぱりあの一、今を生きる自分達だけではなくて過去の先人達がどんな努力をしたか、そして未来に向けてどんなことを伝え継いでいこうとしているのかって、このことをね、あの一やっぱり知った国民、民族の力強さって、こののを、まざまざと見せつけられている思いがしましたね。

ストーリー性

だから今あのお話してきたように、えー、私たちが、皆さんもそうですけれども、これからの人生の中で、えー自分の家族にも、自分の子どもにも、そして地域の人たちにも日本国民に対しても、何を伝え継ぐことができるか、あの一残していくことができるか、こら辺の発想を間違わずに養うことができたなら、私は必ず本物を作れるだろうなとゆう風に思うんですね。

で、そうゆう思いで実はあの、この直入町が挑戦してきたのが、一つはあのみなさん今パンフレットを持っておられる、御前湯です。これ平成10年の10月に建ちあがりましたが、この小さな村の中にですね、5億円をかけてこれを建てあげました。これ町営、当時町営の公衆浴場で、えー、平成10年に建ちあがりました。建設も担当して私はここで2年間館長、初代の館長を勤めましたけれども、これは日本の建築史に残る、うー、日本建築大賞をとられた、えー、造設

計集団の富田れいこさんという方の作品です。えー、彼女は沖縄県の名護の市役所で日本建築大賞をとった方ですね。そしてえーあのオリンピックの時に代々木のもので、あの一オリンピックスタジアム、あれをですね建造する時に担当した建築家の丹下けんぞう先生がですね、21世紀に世界に通ずる建築家を育てたいというそんな思いでね当時東大の建築学部におられた学生さんを一人指名して、そのチームにプロジェクトに入れたんですね。その、あの一学生さんの一人が実はその富田れいこさんでした。で、彼女はある、やはり丹下けんぞうさんの期待通りにすばらしい建築家になって、そして名護の市役所で日本建築大賞をとられた。その彼女がほんの小さな山の中に入って、こんなすばらしい建物を私たちに授けてくれた。

これはものすごいことで、こんな小さな村に住む人たちをですね、そんな日本を代表する女流建築家と出会うということ自体がやっぱり非常にむずかしいこと。さらには、安い建設費、設計料でですね、これだけの作業をやってもらえるということも、これも本当にありがたいこと。そこには、あの、人の繋がりっていう縁があったからこういう作業ができたんですけどもね。5億円だったけれども、彼らは設計料わずかに4千万円でこの建物を作ってくれました。今もこの建物もこれから発信される情報は日本をめぐって世界に届いていくっていう、で、あの一、まさに時を味方にできる30年50年経っても、すばらしい雰囲気をもった温泉館として、この長湯温泉をリードしてくれるだろう。日本屈指の公衆浴場として、建造物として残るだろうというふうに私たちは思っていますけれども、まさにこういう、作業が何を残すべきか、何を伝えるべきかの象徴的な作業であるということをお伝えをしておきたいんですね。で同じようにこれは公衆浴場ですけども、今お手元にある、これはうちのラムネえー、長湯温泉の外湯で作った、あの丸旅館の外湯で作ったラムネ温泉館という、これは300メートルぐらい上流でこれは本当にね皆さんぜひ入って頂くと、ここにトマトが泡で包まれたという写真がありますが体がね、全身銀色の炭酸泉で包まれていくんですね。でここに、『一万の真珠』という、この詩を寄せてくれたのは、えー東大のですねドイツ文学者の池内おさむ先生です。ドイツの詩人が炭酸泉を称えた詩をここにあの一刷り込んでます。いかにこの炭酸泉が気持ちが良いくて体に良いものなのかということをお明かにしてくれている詩なんですけどね。で何でこの建物なのですか、実は今皆さんご存知ないかもしれないけども、日本を代表する建築家として東京大学の安藤ただおさんという方、ご存知ですか？あんまり知らないかな？ボクシングをやりながら東京大学の教授までなったという建築家があります。日本の今最高峰です。安藤ただおさん、これはね、やっぱりね皆さんね観光とか温泉を勉強する以前の問題。この人を知らないってのは非常にはずかしいって思っているぐらいに知っておいた方がいい。あの一、その安藤ただおさんと双壁のですね、東京大学のやっぱりこれ、藤森てるのぶさんという方が建築をした、設計をした建物なんです。で、この建物今ねイタリアのベネチア世界建築展今開催中です。これ出品されてます。

こんな小さな村から何でこんな作業ができるのかということ、これは私が個人的な力を結集して、そしてまさに世界に通じる未来に残すべき建物を作りたいなあという思いで、藤森先生と共に取り組んでそして建設をしたラムネ温泉館です。これぜひ皆さんねあとでどんな温泉なのか体験をしておくと、そこでものすごくカルチャーショックを感じる人は一生その思い出は消えないと思います。もし温泉とか観光とか、そんなことを学び続けていきたいと思うのであれば絶対に体感をしといてください。そうゆうあの一、結局作業に連なっていく、こういうことがこの小さなあの一、村の中にですね、日本建築大賞、芸術院？賞をとった人達の作品群があるということ自体が正直言って奇跡的な作業なんです。で、それは何から生まれたかということ、お金があるから生まれたたのではないんですね。人脈があるということ。志を同じくする人たちとの繋がり

があるということ。そして夢を追うということ。こういう作業のですね、延長線上にみんなが力を貸してくれたから、こういう建物群が建っていったということなんですね。だからどこかの大家がですね、お金の任して俺はこういうものを建ててやるって建てたものが本当にそういう魅力を持っているかという、やはりそれぞれのこういう目に見えるものに大切なのはねーあのー、ストーリー性を持っているってことなんですね。物語性があるってこと。これものすごく大切なことだと思います。

タイタニック号

もしかしてみなさんは、あのー私のホームページなど読んでご存知かもしれませんが、私がいつも引用しているのは、例のあのー、タイタニック号の話なんですね。思い出しますか？記憶にありますか？あのー、1912年でしたっけ、タイタニック号が島の沖合いで大氷山に激突して沈んだでしょ？1513名の尊い命が奪われたけれども、その時にあのー、すぐに波間に漂う遺品が回収されましたね。そしてあのー、みんなで見たらやっぱり世界の億万長者が乗りこんでいた船でしたから、すごい遺品の豪華さ。ところが、その遺品が豪華だってことにも驚かされたけれども、自分達が一番驚かされたのは、こういうことだっていう、ある一人の男が情報を流したんですね。それはどんな情報だったか。1912年ですか、今からほぼ10年前ですが、あの時にあんなに悲惨な大事故に遭いながらも、ある旅行鞆の中に収められたドレスが一滴の海水にも侵されてなかったという。ぜんぜん濡れてなかったという。そのことの実事を世界に報じた男がいたんですね。その男の名前は、ルイ・ヴィトン。ルイ・ヴィトンは何を言いたかったか、今の、つまり今から見ると100年ほど前にもこの世の中にこんなに安全で、丈夫な旅行鞆が存在しているんだよということの世界の人達に知らしめたんですね。で、そのことを知った電通のある部長さんが、ルイ・ヴィトンってのは凄いな。物がすごいってのも、それももうみんなが認めるんだけど、何がすごかったかと言うと、超一流、時空を越えて、時を越えて、場所を越えて語られながら愛されていく超一級品ブランド品には、それにふさわしいストーリーが備わっているもんなんだよなあということをお私たちに教えてくれたんですね。

結局、あの～目に見える色んなものあるかもしれない。しかしそれがどういう物語性を持っているかっていうことがさらに重要な魅力であるってということも皆さん方に私たちがお伝えをしておきたいんですね。ヨーロッパに行くんですね、ほんとに小さなアパートの片隅のレンガが一つポロッと落ちて落ちてるんですね。で、そこにね、張られた銅版になんて書いてあるかって、ここにゲーテ住みきって、もうわずかにこんな銅版ですよ。それがねもう古びたアパートのあの～ん、赤レンガのね、一つもげた穴の中にね、銅版が差し込まれてね、もう、もうそれでも、あの～何十年何百年って経ってる。え～ここにゲーテ住みき。つまりこのアパートにゲーテが下宿をしたことがあるよっていう、そういうメッセージが実はね、そのアパートのその風格というかストーリーをすごく興味深く伝えてくれるでしょ？で、そういうことを日本人手のはほとんどやらなかった。だから何が大切かがわからない。その町にどんな歴史があるかもわからない。そして通り過ぎて、そして目に映るものだけに惹かれていった。だから本当に大切な歴史や文化、伝統というものを見失ってしまったっていう、そういう私はこれまでのね、非常にあの～やはり寂しい60年間であったそんなこう、気がするんですね。

だから私は、飲泉場とかこういう公共の施設の壁に必ずこの町に来た、まあいうならばごく有名なあの～作家だとかドイツの博士だとか駐日大使さんだとかそういう方々のここに来て思ったメッセージを全部直筆で書いてもらってそれを銅版に写し取って壁にきっちりこう一保存をしてってます。見てください、もうなくなった方がずいぶんおられます。が、しかし古くなった銅

版はそろそろ緑青がふいてきてね、す〜ごく風格が出てくる。たった一枚の、当時3万円しかしなかったけれどもこういう銅版がですね、今言ってみると、えっこの人はあの〜あの〜パートナーハイムのあの〜温泉管理局長をしてたあの博士ですか？ドイツの、あの〜その、国会議員なんか来て、驚くような人達が来て、そしてそこにメッセージを書き綴ってある。それが銅版で残ってる。そういうすごさがですね、町の中にちりばめられているということに思いをめぐらせると、なんか大きなビルがあるからその町が素晴らしいとか大きなホテルがあるから素晴らしいとかじゃなくて、ほんとに生活の中に溶け込んでる小さなですね空間の中になんとなくこの小さな町はそんな魅力を持ってるのか。そんな歴史を持ってるのかと思うと力のある人ほどそういう空間にですね、みせられていくというか、それが単にその時代だけではなくてですね銅版っていうのは、今度のうちも、あの〜ある作家のえーブロンズを置くんですけども、ラムネ温泉の中庭にね。オンリーワンっていう作品なんだけれども、あの〜彼女に言わせると、銅版、あの〜ブロンズの銅は、あの〜今わかっているだけでも千年もつんだそうです。千年ね。だからそこに埋めこめられたそういう銅版のメッセージっていうのは少なくとも千年、そのメッセージをずっと発信し続けてくれるということでしょう。何を伝えてくれるかっていうのが最たるもののわずか3万円の銅版から発せられるということの力の強さ潜んでいるものの強さに、皆さんに私はあの〜目を向けて欲しいなあっていう、こう気がするんですね。

自分の故郷に誇りを持って

で、実はね温泉地とかそれからあの〜観光地とかいうことの中で私はあの〜これ一番の原点だと思ってるんだけど、どうして人が集まる温泉地、人が集まる観光地が育ってきたかっていうこと。皆さんなんだと思います？一番の発祥って言うか、原点は。何でそんな人がそこに集まって〜え〜そしてあの〜町が発展をしていったかっていう。これはね、一番大切なのは、例えばここに長湯温泉って言うのがありますけども、長湯温泉っていうのがすご〜く気持ちのいい泉質の温泉だということ。これをその土地の人達が生活の中で自分達が実体験する。っていうか、楽しめるっていうことに俺達はいいい温泉を持ってるっていうことをその人が誇る。わかりますか？自分達のふるさとに、住んでる土地に誇りを持つって言うこと。その誇りを持って暮らしてる、その暮らしぶりに外から見た人達がいいなあ〜って、俺らは今から帰って全部こう焚きもん炊いて、んでお風呂を沸かして、んではいらなきゃいけないのに、あの人達ってのは天然の素晴らしい温泉に入れるからいいよねって言って、憧れる。で、一晩でもいいからこの土地に住んでる人達と同じように自分達も気持ちのいい〜あの温泉に入って、ここでわらじを脱いで過ごしてみたいなあ〜って、そんな誇りを持ってみんながこう集まってくる。あの〜憧れを持って集まってくる。つまりね、土地の人が誇って、で外の人が憧れて、その還流するエネルギーがね、力を生みながら町というのは形成されていったはずなんです。だってここに、土地の人がぜんぜん誇らずに、あ〜ここ温泉あるけど、あ〜この温泉はもう色がついててだめだから入らないほうがいいよとかね、こんな入っても駄目だよなんて言ったら外から来る人達は憧れるはずないですよ。

ところがその土地に住んでる人達が、あんた達はね炭酸泉っていうのは入ったことないでしょ？入ると体が銀色になるような泡がついてね、まあ一度入ってみなさいよ。私達も入っているから、だから、こう体が健康でね気持ちいいんですよって言って、誇ってる姿を見てるから憧れるわけでしょ？だからこのね、誇る心とね、憧れるという心が出会って還流をしていくっていうところに、温泉地とか観光地とかが発展してきた一番の原点があるっていうこと。このことをですね、あの〜忘れてはいけないってそう思うんですね。

ところが日本がディスカバー・ジャパン以来ですね平然と皆さんがたに操られるようにしてもの

すごいビルのようなあの～温泉宿，ホテルを造ってどんどんどんあの～バスが押し付けてね，押しかけてほんであの～なんか朝から晩までどんちゃん騒ぎみたいになんか街はお金を獲得していったように見えたけれども，そのブームが去った後，何が残ったかっていうと，ものすごい虚しさが残ってる．皆さんね，まあ言ってみていいかどうか．あの，石川県のカタヤマズ温泉とか山中温泉とかですね，まああのあたり，まあ私も友達がいるからあえて，彼らが言うから言うんだけど首藤さん，あの時代に私達はその土地が持ってた歴史とか文化とか伝統とかいうのを全部そぎ落としてしまった．そして，本来無いはずの大きなホテルとかを造って，ほんとにいっぺんに千人も入るようなホテルを造ってしまった．ほんで，皆が観光バスで押しかけて行っているときは，もうほんと外を見る暇がないくらいお客さんの接待でものすごく儲かったんだって．儲かったけれども，儲かる一方でその建物を建てた借金の返済とかね，それから一時的にお金を手にしたことの喜びでもって，まあ例えばゴルフをして遊んだりとか，酒を飲んだりとか，旅行したりとか，すこーしは未来の将来のことを考えればいいのに，あるときにぜーんぶ使っちゃった．

そしてブームが去った後，誰も来なくなった千人収容のホテル，皆さん行ってごらん．ものすごく悲惨です．も～その駐車場から，玄関から，もうもちろん倒産してるんですけども，もうぺんぺん草が生えてね，もうガラスは割られてね，いったい何十億かけてこのホテル造ったんだらうかって．そういうのがもう，3軒に2軒ぐらいつぶれてずーっとつつ建ってるから，夜行くとね，なんかどんな街，なんかものすごい寂しい街に行ったような気がする．まっそれは自分達が本来そこにあるものを自分達の身の，身の丈で愛して，保存をしてそして誇り高いそういうものに，保持していったらよかったのに，その本来誇るべきものをどんどんどんお金に換えてしまった．ほんでおまけにそこにあったはずの歴史とか伝統とか文化も全部そぎ落としてしまったからいざ，ブームが過ぎてしまったらほんとに何も残らなかった．このことがねすーごく，やっぱりあの私たちの大きなあの反省点をね，教えてくれてるんですね．

だから長湯って言うのはいったいどういう町なんですか？あなた方は何を誇ってますか？っていう時に返ってくる言葉が，何よりも日本一のすごい泉質の炭酸泉がありますと，川がありますと，自然環境が素晴らしいですとそういうようなそういう素晴らしい環境が私たちに与えられますと知っている人達は絶対下手な，下手な開発はしないはずですよ．だからそのところをですね，ものの考え方が間違わないように，やっぱり～あの～進めさせていくということがまあこれから未来を担う皆さん方の大きな責任ではないかなあと私は思うんですね．

そしてね，今文化庁長官がね，河合ハヤオさんって方が今文化庁の長官をなさっておられる．ちょっと今病氣されていますけれどもね，この方がえー21世紀の日本の構想講話会っていうね，あの～未来の日本はいったいどうあるべきかっていうことの中なかで，特に観光についておっしゃったことをものすごく私は正解だなんて思うのは，彼はこう言いました．『将来の，未来の日本の観光で大切なのは広めることではなくて深めることである』こういう話をしました．どういうことかって言うと，今までは表向きばっかしで，なんかずーっとそのあれもあります，これもありますって言って表向きの表面的な広がり求めていったけれども本当はその土地が持つる力をずーっと深く学んでみなさい．そうすると，そこには目には見えなかった知らなかった魅力がたくさん見出されますよっていう，こういう話をされてるんですね．

15年前私はね，あの～エジプトにね，ずっと憧れてて，エジプトにね，行ってきました．で～そこにいったとき初めて，今，河合ハヤオさんが今言っていることの意味がすごく良くわかるんですけど，あの，え～ピザにありますがクフ王のあのピラミッドをバスの中から一番最初に見

たときには、ほんつとに度肝を抜かれました。こんなに大きなものがこの世の中に存在してるの
かって。だって見たときにバスの中から、こうやって見ないと見えないぐらいにピラミッドって
言うのは高かったわけね。でその大きさにも驚きましたけれどもね、実はあのピラミッドがどう
して建てられたかどこからあの岩を切り抜いてきて、どうして運んだか。そのことをね、日本人
の学者さんが私たちに通訳をしながらずーっと教えてくれた。そうするとね、その石垣をどうし
て積んだか。なんであれが東西南北きれいに並んでいるのか。そしてあの一辺の長さが236メー
トルだったかな。クフ王がこうやった長さのね、この長さのね、ちょうど365倍。何を意味して
るかっていうと一年の周期ね。365をかけたその長さがピラミッドの底辺の一辺になってる。っ
てというような話を聞くとね、こんな凄いことが組み込まれていうののって、つまり表で表面的
に見るのではなくて、その創られたね、そのストーリーとかその仕組みとかまでも並ぶとピラミッド
が全然違ったものに見えるの。

日本でもそうだけれどもお城がある。例えばそこに岡城がある。あのおの岡城は、あの～どうい
う大工さんが作ったかっていうそういうことまで、全部歴史に残ってる。それを知ってその人が
作ったものがここにあるのよね。それを近くで見るとものすごく上手いの！うわ～こんな力もつ
た人達があの石をつんでいったのか。そういうことを知るとね、単にこっちで、あ～なんか高く
て石垣をみると綺麗ですねっていうだけじゃない魅力が見えてくる。

だからこの長湯ってう温泉もそうだけれども、今私が話している中で、あ～ドイツとの交流し
ながら何を見出したのか、あ～この町はおそらくこういう風に進んでいくんだろうな～なんてい
うな事を分かり始めると、その町の持っている魅力っていうのはどんどんどん膨らんでいく
のではないかな。だからみなさん方が学んでいる事が非常に大切なんです。見るとか、ただ表
面的にただ見て驚くとかいうそんな話ではない。あの町実はね、こういうストーリーがあったん
ですよっていう事をみなさんが知ることによって、人に伝える事によってその魅力っていうの
は10倍にも20倍にもなっていくということ。それがもしみなさん方が手がける、自分のご自分の
故郷でやる、どこかでやるとかいった場合にそういう事を意識して作業する事の大きさっ
ていうのを今の内に知ると私はものすごい大きな力になる。あなたは若いのによくぞそういう所
まであの目が向きましたねっていう話に必ずなると思う。だから、あの～例えばどっかを見にい
った時にあのあ～いい温泉館ができてますね、この温泉館はどういう設計者が作りましたか、どう
いう機能を持っていますか、その人はどういう経歴を持った方ですか？っていう事を聞くと相手
はドキッとすると思うよ。おそらく。だから平面的に見えるものだけではなくて、やっぱり深く
知るといふ事。深く知る為が一番大切なのは、私達が展開している事が地域学という事で、大分
県というのはどういう県なんだろうか、長湯温泉というのはどういう歴史を持った温泉地なんだ
ろうか。今でも勉強しています。そうするとね、70年前の歴史にであったりする。そうすると、
わ～この町の人達はドイツに憧れていたのか。昭和の初期にドイツ建築の公衆浴場もすでに建て
ていたのなあって分かってくる。そうすると他の町が持ってないね、非常に魅力的な歴史を掘り
起こすことだってできるのね。だからドイツと交流して、交流してもその意味が他の町がとって
付けたようにやるよりも全然違う大きな深い意味を持ち始めるということ。そんなことがね、私
は、大切な大切なあの～視点ではないかなっていう風に思ってるんですよ。

ドイツワイン

でちょっと温泉から離れるけどね、あの実はうちの町に、あの～ドイツの姉妹都市からあの
～コメントシャフトっていう友情っていう名前のドイツワインがはいっている。輸入されて
きている。もしかしたらみなさんご存知かもしれません。で平成5年にわたって、向こうに行っ

て交渉して平成6年に始めて3千本が上陸してきたんですね。で、このワインがね、その町から外には出ない、つまり「旅をしないワイン」っていう事で有名だったのね。その町に人間が行って飲まなければ飲めない。ワインは旅をしないからあなた達が旅をしてそしてその町にきて飲みなさい。っていうそういう意味の旅をしないワインと。でそのワインをね、門外不出だったんだけれどもまあ話せば長くなるからあのもう話ませんけれども、向こうの人達との交流によって、「よし、お前たちに門外不出のワインをあの～飲ましてやろう」って言って平成6年の最初の3千本がこの町に上陸しました。

そして入ったらね、あの酒屋さん達が「首藤さんあの～実はこの町でワインを1年間に何本売れるか知っていますか？」って言うんですね。みなさん何本くらい売れてたと思います？（問）実はねあの～平成6年だからどうなのかな、平成6年だからじゅう・・・えっ、じゅう・・・今平成18年だから・・・12年前か。ああ。あのこの町で1年間に（用意）させていたワインの量は30本だったんですって。そこに私達が3千本持って帰って、そしてこうやって酒屋さんを集めて、「さあ、こうして直入ラベルのワインが入りました。みなさん頑張って売ってよね」っていう話をしたら、「首藤さん、あんた馬鹿やな～30本しか年間売れんのに3千本も持って帰ってきたどうするかい？」っていってみんな尻ごみするから仕方ないから私達は、あの3人の仲間でその資金を全部出し合ってたのね。で、あの売れなかったら全部私達が責任もつから、それで引き取るから大丈夫。まずは売ってみてごらんって言って出したらわずか3ヶ月の内にですね、幻のワインがついに上陸したっていってテレビ・新聞でもものすごい評判になって、でそのワインはわずか3ヶ月で売れてしまった。そうしましたらね、あの「次のワインはいつ入るんだ？」って言ってね、酒屋さんが大慌てをしたっていうようなね、あの～とても面白いエピソードがあるんだけど。そういうことで、あの最高でね1年間に1万4千本入ったことがある。今1万本くらいかな。で、そのワインがね、あの～入って～で、え～これはすばらしいなって、みんなが言ってくれ始めた時には、私はドイツの友人に話した。2つだけあと欲しい物がある。1つはワインを樽から飲んでみたい。こういう夢。そして、もう一つはですね、あなた達の町で一番すばらしい葡萄が取れる畑を直入町に寄贈してくれませんか？っていうちょっとあつかましいお願いをしました。そしたらね、タルのワインはすぐに贈られてきました。で～畑の方はですね1年ぐらいたらドイツの国際交流員がですね。も～あの息せき切って飛んできて「首藤さん、あなたあんな事言ってたけれども、あのことが夢が本当の実現になりました、実現しましたよ」って言って来たのね。お手紙を見たら、え～9月に葡萄畑の贈呈式をするから、ドイツに來いっていう誘いの招待状が来た。

で行って見たらね、スイスとフランスの国境が見えるものすごい綺麗な高台の葡萄をね私達の直入町の為に準備してくれてた。で、赤ワインでだいたい1000本くらい、白ワインにすると3000本くらい取れる、あの～ブドウ畑が私達にこう、あの～寄贈されることになってね、で向こうの代表者とね、私達がね、そこで大きな名盤が立ってて、記念碑がたっていてそれのあの除幕式をやったんだね。そうしましたらね、あの～幕をばあ～っと開けたらね、何て書いてあったかというとな、

「わが町バードクロツィンゲンと、アジアの友人直入町の永遠の友情の為にこの葡萄畑を直入町に捧げる」って書いてあるんです。ドイツ語と日本語で。それもね、あの～彼らはね、ブロンズ、銅版のね、削って作るっていうのがもの凄い上手なんですよ。風格のあるね、ものすごくすばらしいね、名盤の（型をつくって？）くれた。でね、それを見てね、もう本当に感動しました。あ～これで、まあ私53才になりますけれども、あの～ず～と走り続けてきて、こんなどんなに

(消費者)がお金も積んでもできないような夢のあるストーリーをね、ここに今実現ができた。こんなドラマが実現できるのだろうか。そこで語られた名盤、そしてそこで生きている人達、その子供、私達の子供、次の代を含めて全部そうですけど、ず〜っと永遠にその町から直入町にブドウ畑から、そのこのワインが贈られてくることなんです。そんなすごい歴史を私達が生きているうちに作れたっていうね。こういうことの作業っていうのはね、やはり同じ人生を生きていく上で、こんな事もできるのかという、ものすごく感動しました。

で、帰りの飛行機の中でねあの〜そんなことを思いながら帰ってたらね丁度あの機内誌にね、マザー・テレサの特集をくんでいた機内誌がありました。で、それを読みましたらね、こう書いてあるんですね。マザー・テレサがもっとも愛して、もっとも心の支えにした言葉というのが載っていました。でね、「(聞き取れない)、自ら進んで明かりを灯しなさいっていう、あのラジオなんかであの聞く言葉なんだけれども、ありますけれども、実はね、マザー・テレサが一番愛したという言葉というのはね、このすぐに続く言葉だったんでそうです。「誰かがやるだろうという事は、誰もやらないという事を知りなさい」分かりますか? 「誰かがやるだろうという事は、誰もやらないという事を知りなさい」つまり、あ〜これは素敵だよ、こんなことみんな楽しいからみんなやるよねっていつてみんなが思っている。だから誰かがやるだろうと思っているような事は蓋を開けてみると何年たっても誰もやっていない。だって貧しい人を救う。それはとっても大切な事とっても貴重な行動ですよ。ところがそんな事はみ〜んな分かっている。ところがみんな分かっているんだけど、それは誰かがやるわよって思うわけ。ところがそんなところに限って、時を振り返ってみたら誰もやってなかったっていう。だから思いついたあなた自身が行動の第一歩を起すべきですよっていう教えなんですね。その事を私達はあのドイツに、何十年、何百年という歴史の中で誰も果たす事のできなかったあの旅をしないワインに、旅をさせたという事に対しての誇りみたいなものを感じましたね。

みなさんが今からね、社会にでてね、いろんな事をねこの勉強を糧にしていろんなことを、あの〜展開していく、実践していくでしょうけども、その時必ず壁にぶち当たりますよ。私達だって今でもそうですし、え〜これまでもそうでしたし。いつも順風が吹いてるわけじゃなくて、逆風の中にあったりする時にやっぱり大切なのはね、あの〜これを気がついてる私がやらずして、誰がやるの? かならず私が成し遂げてみせるっていうような思いが無い限り、心の中で思うだけ。そして悪い事にやっている人達を批判してしまう自分が何処かで生まれてたりするものなんです。それが、それがこれまでの日本の温泉地をやっぱりのばしきれなかった、非常に大きな要因がそこに横たわっている。だから一番大切なのはそういう精神構図をね、どういう、どうして自分達、自らの手で変えていくか、また自分自身が変わっていくかということが何よりも大切だっていう事をあの、私はかんじるんですよ。

長湯、次のステップへ

まっ今長湯温泉がねあの次のステップに入ってる、長期滞在の施設をつくらうというようないろんな話とかいろんな事がある。あの〜私は別府大学から今おられる、つじの先生っていう同志社大学の私の大先輩なんですけれども、そのつじの先生が68才かな? になられるんだけど、え〜来年あの〜再来年の春、この直入町に奥様と一緒に、まあ次の住処の地として住んでいただくように今計画してます。で、川を渡ったところにあの〜(くみき?)の林があるんですが、あの林の中に小さな図書館を作る、今もう図面を引いております。あとその周りに6棟くらいの長期滞在施設を作る、今設計に入りました。でこれはなにをしようとしているかという、温泉地は単に温泉に入って気持ちがいいですって人達だけを寄せ集めるだけではなくて、あのやっ

ぱりね文化的な、私的な事を学べる、まあいわゆる学んでいきたいなっという知的財産の勇知。その先生が住む事によって、この長湯っていうところにすばらしい、あの～知識をもった人が、あの～移り住んでそしてそこからすばらしい情報が発信されていく。そうすると皆さん方のように何かを学びたいっていう時にそのつじの先生がみなさんにいろんな情報を与えてくれる。そうすると、ああ～温泉地というのは単に温泉には言って、ご飯を食べてどうのっていうんじゃなくて、あの～図書館で難しい本を読めて、こんなすばらしい先生のも会えるんですねっていうような、そういう総合力が付いてくると、温泉地の魅力っていうのはすごく深まると思うのね。そういう作業をやっていきたいなあとは今は思っています。

そしてもう一つはですね、これはもしかしたらとっても活気的なことになるかもしれませんが、今これね長湯温泉がねラムネ温泉水を、え～いよいよあと一年半の今山岳連関係で研究調査をしていよいよこれ後一年半弱で世に出せることになると思います。商標はね登録、あれしてるのは飲用のラムネ温泉水って言うね温泉水っていうね温泉水って堂々と温泉水と書いて出していく飲用水って言うのは全国にもそうはないって思います。何でかっていうとね飲んでみたら分かるんだけど、マグネシウムとナトリウムがもの凄い量溶け込んで。普通のスーパーミネラルウォーター、ミネラルウォーターの中に大体1リットルに溶け込んでるのはねマグネシウムでね20mg以内ナトリウムも同じぐらいです。ところがね長湯温泉ではねマグネシウム、ナトリウムともにね400mg近い。二十倍。ほんで、なんで飲んでみると分かるんだけど冷やして飲んだら面白いんだけどもの凄くまろやかなのね。でね、これがおそらく全国の方々に愛されるだろうと思うのは、あのこういう水に溶け込んでいるマグネシウムイオンがええインシュリンね、あのすい臓発するインシュリンのあの感受性を高めるといことが最近科学的に実証された。どういうことかと長湯温泉を飲むと血糖値が下がってくる糖尿病の人たちが随分と助かるということが昔から分かってたの、経験地だよ。何でそうなるのかっていうのがほとんど分かっていなかった。ところがそれを大きく操作しているのはなんだったかというこれに溶け込んでるマグネシウムとナトリウムと炭酸ガスのバランスなんですって。これであのぐんぐんぐんぐん血糖値が下がってくるというのがこれは相当・・・これはもう体験すればいいことでまあ私たちがいうことではないんだけどおそらくそういう人たちの間でこれは今から愛されていくだろうと思うのね。でこれを世に出すっていうのがまあ私たちのまあ長湯温泉の次の指名であるだろうという風に思っています。でこれに例えば120円、一本につき120円の利益が上るとすれば、その20円は町づくりの観光戦略のために皆で使えるお金にしようねって今申し合わせをしています。自分達の懐に入れてはいけない、20円はね。その20円を出したら一万本売れたら20万円でしょ。十万売れたら200万円でしょ。十万本なんか一ヶ月一万売れるとすれば年間に120万本？120万だよ、だから二十年のときは何ぼですか？2400万？それだけのお金が町づくり基金として積み立てられていくことになる、それは、皆が懐に入れても仕方ないじゃない？皆で使えるお金を少し貯めて上手く使っていきましょうよっていう申し合わせをしている。

このあたりが大切でね、ヨーロッパで言うとなぜ皆すごいなって思うのは橋の欄干辺りに国宝になるんじゃないかって言うなすごい彫刻のブロンズが並んで。こうイタリアとかフランス行ってごらんこう橋の欄干にねものすごい彫刻があんこう施されてる。ああ見るともちろん貴族がやったんだけど、僕は偉いと思うのが自分は豊かになったからといって自分の懐に全部その豊かさを抱え込むのではなくて、それだけ大きな富ができたならその一部でも地域のために還元をしてあげたいなというこれは公の騒動という言葉なんだけど皆のためになるような作業ができたらいなあ、皆が喜ぶ顔が見たいなあ、そういうような人間達が人がこの町に多く住んでくれるとよ

しサクラの並木を作ろう。あの橋の欄干にあのかっこいいブロンズ像を配置していこうなんていう話しがいとも簡単にできていくわけですね。

ところが日本の公共の作業の中でそういうことができた試しがあるかというとはほとんど無い。皆反対する。そんな無駄なことはするなとかね。だからなんかホテルは自分ところのホテルは大きくなって儲けてる気になってるけど町全体の魅力がやっぱり作り出されないと面白くないじゃないそこに住んで誇りをもてないじゃない。だからそんな意味で、私達はこの町にやっぱりそのブロンズがいいとか何がいいとは言わないけど皆がこれがあつたらいいなということをやっ取り組めるようなそういう仕組み作りだけはやっぱりやっておきたいなという気がしてるのね。だから皆さんがこれから先もそうです、自分がやることが如何に社会に貢献ができるのか、皆が喜んでくれるのか、そんなことを思ってもしそのことが一つ一つ成就していくとね、それらのドラマがね、感動を生んで次のエネルギーを生んでくれるんだと僕は思ってます。今のうちから、さっき先生が言われたように今のうちからね、そういうことに接していくとね、私はね、非常に心豊かな人生をこれから歩んで行けると思うし、どんな人に出会ってもね学ぶことができると思うの。

誰もが私を応援したわけではない

ある人が主題のなかで私たちによく尋ねるのが首藤さん、人がついてきてますか。地域の人たちがあなたについてきていますか。って話をよくするの。でね、僕はこう言うの。ずっと今までやってきた運動体のなかで皆からやれって、あなたを応援するよって言われたことがほとんどなかった。それはなぜか分かります。地域の持っている意識と自分の意識が離れてるから。もし、私がそこまで下がって、そこまで皆に近づいて皆と同じように日常のささやかなものを楽しめばいいわっていう視点ですと自分の人生を重ねていったら恐らくこんな挑戦はできなかったの。だからいつもいつも逆風だったけれども、一つ一つが夢が実現をしていくと皆がこの御前湯が出来た時に、首藤さんこれ14万人も来ました。だから言ったじゃないですか温泉が魅力的だから、建物が良かったら必ず人が来ます。人が来ることによってあなた方はいろいろなことができるでしょ。そうやって誕生したのがあそこにある温泉市場です。あの温泉市場で7000万の売り上げがあります。そしたらあるおじいちゃんがいつも私に反対していたおじいちゃんが「勝っちゃん、申し訳なかったなあ。私たちは農業者で観光のことは関係ないって思ってた、観光客が来たら自分たちが作った野菜がこんなに売れるとは思ってもいなかった。産業っていうのは連なっていくんだっての今からあんたを応援するわ」ってこんな話になって。そういうね、あの視点づくりが大切。だから本物に出会う。本物の物の考え方をしている人たちのその行動をしっかり分析をしていったらついていくかついていかないとかそんな余分なことは考えなくても、結果的にはね、時代がついてくる。世の中がついてくる。そして必ず、人がついてくる。さらには経済がついてきます。間違いなく。

私はこのラムネ温泉館ね、これわずか1億7000万円でしたけども、個人にしてみたらとっても大きな出費です。一ヶ月に100万以上のね、あの返済をしなればいけません。ところが、私の中には確たる自信がありました。これは世界にここしかない温泉だから、間違いなく皆に愛されるだろう。去年8月4日にオープンをして1年間を過ぎましたが、1年間にこの小さな施設の中に入ってってくれたのが11万人としましょう。11万人です。6万人だったら、ペイするんだけども、11万っていったらほぼ倍です。で、そこで生まれた利益を何に持っていかっていうとね、それがさっき言ったように、少しずつお金が儲けたらそしたら、そこで働く人たち、皆さん方のような若い人たちをスタッフとしてここに雇い入れてそして温泉の素晴らしさを皆で体感し

ながら人を育てて行く。次の世代に役立つ人たちを育てていく。そしてこういう空間をもっともつと素敵なものにするため彫刻を置いて有名な私の友達の彫刻がそこに建つ。その彫刻は私たちが死んでも残っているわけですね。そういう作業ができていく。ところが今までの日本の経営者たちは何をしたかっていうと、ゴルフに行ったり、お酒を飲んだり、ねえ。そんなことでお金を使うことがたくさんだったらしいんだけど、もったいないですよ。あまりにも。だったら、皆が喜んでくれること、そして未来のこの土地に力を与えてくれることに注ぎ込んでいったら僕は面白いだろうなと思って。まあそういうことに、あのいろんな作業は連なっていくんじゃないかなあという想いがしているところです。

逆風の中でしか風は天高く昇らない

ええ、なんかね、話が行ったり来たりしましたけども、まあそんなことで。ええ、今あなた方にあの感じて欲しいこと、そして必ずあなた方が今学んでいることがいずれあのどんなあの立場になろうとも、例えば家庭の主婦で、お産になろうともね、私は、あの、ものの考え方として、あの、ああそうか世の中にはこういう考え方をした人、こうした挑戦をしていっている人がいるんだなあという風にそんな場面に出くわしていくことを体験した人ってのはもの凄く強いと思う。大きなものをね、得てもっとも自分は大きくなってくだろかなあという風に思っていますから、あの期待をしております。で、私はね、順風満帆ではなくさっきも言いましたように逆風とか壁の中にいましたけど。あの逆風の中でしかね、風は天高く昇らないって僕は若い人たちに言っております。いつもいつも順風で順調だったらいいなって誰もが思うけれどもそんなに容易い世の中じゃない。反対する人、足を引っ張る人たくさん出てきますけれども、大切なのはね、壁にぶち当たった時にそれを越えていく勇氣があるか。また逆風の時にその逆風をね、この胸いっぱい受け止めてね、風のように天高く舞い上がるエネルギーがあるかどうか。それはものの考え方ですね。そうするとやはり私は、どんな逆風が吹いてもこんなことに挫けるか。それで挫ける人生だったら最初から挑戦しないほうが良い。自分で思えるようになると思う。まだまだやればやりたいほど、あの、やることが多い程そんな試練というのは大きいけれども、あなた方の年代からずっと考えたら僕は53歳まで2, 30年間、30年間走ってきて良かったなあと思う。

いろんな人に出会って自分にできないはずのことに挑戦をしながら自分を苦しめながら歩いてきて良かったなあって思う。皆さんいずれ分かります。50過ぎたらね、あの、必ずね、時間をもったいないと思いはじめ。ああ、自分が今30代だったらなあなんて思うことがある。そんなね、悔いだけはね、残してはならないと思うんだね。必ずそういう時代は来るから今のうちに今自分が出来ることに精一杯挑戦をして欲しいと思う。そうするとね、走り続けた自分をね、いずれはね、褒めてやれる、やりたいなあと思うそういう自分が出来上がってることと僕は思いますよ。そしてそれでもね、あの私の親父の残した日記の中で好きな言葉が、自分ができなかったからっていつてそれを悔いに思うのではなくて、次の時代に託せるから嬉しいと思え。それが夢をかけるというものだ。っていうこんな言葉を親父は残していますけど。一生懸命やればいい。やれなかったからといって悔いを残さなくていい。あなたたちがやらなければ子どもがやる。ね、いずれのその土地に住んでいる人たちがやってくれる。

ただ、正しいことやってみたいことは何なのかという目標だけは見失わず持ち続けることはいかに大事かっていうこと、それだけはやっぱり失わずにいって欲しいなあ。そんな気がするんですね。ちょっとね説教めいたこと、さっきの本の話、人の名前の話し、むっとくることがあったかもしれない。むっとくるっていうことはね、あの、自分にエネルギーがあるっていうこと。聞き流すのではなくてね、何か嫌なこと言うねとか、押し付けがましいこというね、ってもし思っ

たらそれはね、あなた方に力がある証拠。ただそれはね、まともに真面目に受け止めるべきだと思う。で、それを越えていく自分を作ってこそ初めてね、私はあの人に出会う、物事に出会うその価値がほんとに生まれてくる。と思いますね。まあ、そんなね、あの切り口がざっくりざっくりしてて、あのまとまりませんけどね、ええ、まあ皆さん方にもし、あの、質問があったり、またぜひね、今日はあのこの温泉地に来られているから御前湯とかあのラムネ温泉の泡のつくね、あの炭酸泉ここまで来たらね、あの絶対入って帰るべきだと思うんで入れる人はぜひ入って下さい。て、いうことでありました。あはは。

白石先生：はい。では、ええ～お聞きしたいこと。手を挙げて。ん～。もう。まず始めろって。自分で始めろって言ったでしょ。ふはは。はい手を挙げて。

首藤さん：なんでもいいですよ。

白石先生：えへへへ。ほら～。

学生：・・・・・・・・・・・・・・・・

白石先生：ん？ほら。誰か手を挙げて言え。

首藤さん：あの～前は丸長さんでしたよね。

白石先生：はい。

首藤さん：で、その前が翡翠？

白石先生：翡翠。

首藤さん：はいそうですか。

質問その一

学生：今、私たちは二十歳ぐらいなんですけれども、首藤さんは二十歳ぐらいの時、将来のことはどのように考えていましたか。

首藤さん：ああ、ありがと。ありがと。あのね～。二十歳。ええ、二年か三年だよ。本当に正直なところ言うと、今ここで女将やってるうちの家内も一緒に京都にいましたから、まあ、半分同棲みたいな学生時代を過ごしてしましてね。であのー、ただねえ、あの、なんかこう、私はこう、自分がおそらく将来生きる土地っていうのは、このふるさとだろうなという思いがあったから、まあそのふるさとでどんなことができるんだろうかなあなんてことだけはね、いつもねものすごく、あの幼稚だったけれども、あのね、麻雀が好きだったから、帰って麻雀屋をどっかでやったら面白いとかね。そんなことを考えたりね。色んなことを考えたり、ただね、あのーそういうあのー、あれをやったらこう、面白いんじゃないかとかいうことばっかしはねいつもねあの眠れない時はそんなことでね楽しんでた。だからあのーそうやってねもう一つはあのー、やっぱり僕らすごくこうライバルがものすごくこういい所で学校で学んでたりっていうことがあってね。京都だったけれども、僕はとうとう国立、京大を受けずに同志社に入ったんだけど、なんかそういう自分を許せなくてね、それであの、とにかく誰にも負けないぐらい本を読んでやろうと思ってね。だから学生の頃はものすごく本読みました。今もたくさんたくさん読んで、もう寝床の周辺なんて本だらけで、で、私の持つてる本とさっき言った辻野先生が持つてる本で、二人の分で図書館ができるんじゃないかって思うぐらい、面白いとってもユニークな本がたくさんあります。だからあのー、本を読んだですねー。ほんで、読みながら色んなことを考えたし、その中に出てくる教わるような言葉はね、でたら全部ノートにね書き留めてました。いずれ自分の人生を支えてくれるんじゃないかと思って。だから今その閻魔帳これぐらいの厚みのね本になってます。本というか自分の持つてる、だからいつもなんか思って、今でも色んなものに出会ってこれは忘れちゃいけない！と思ったら必ず書きます。そうするとね体験をしている時にね、あーこ

のこと、はあの言葉はいい示したのはこのことだったのかとかいうことがねわかってきたら結びつけたりねできることがある。だからもう僕は皆さん方に特にもう本当に、うちの子ども達にもいってんだけどね、本を読んでください。本当に。どんな本でもいいからあの、本を読んでほしいなあと思う。そんな自分でしたよ。二十歳の頃はね。パチンコと麻雀に狂ってました。いや、ほんとに。だけど今そんな無駄に思えたような時間も今となってはね、すごく貴重だったなあ、と。そんな風に今でも思っています。みなさんは学部としては？

白石：学部は文学部です。

文学部、ほお～。私は麻雀をやったりパチンコやったり全然勉強してなかった時に夜中に反動が出て、あー、もしかしたらこういう時にたくさんのを学んでいる人達もいるんじゃないかなーなんていう、あの、良質の焦りというんだけどね。変な焦りじゃないのよ、あの、質のいい焦り。それはね人生の中で持っとくべきですね。それともう一つはね、あの一、最近とっても僕は好きな本の中で『モーツアルト天才の秘密』という本が出てるんだけど、この中でね臨界期っていう言葉が出てくる。臨界期ってのは、臨む臨に世界の界ね。臨界期、これはもう皆さんのほうが詳しいかもしれないけど。モーツアルトなんかみてもそうなんだけれども、ある時、ある年代までに出くわしたり、読んでおいたり、やっておかなければいけないこと、それは必ずやり遂げておくべきだ。それを過ぎて、あの時にやるとけばやかったって言っても、あとでどんなにやろうと思っても絶対的にそれは後では吸収できないというか、一流のものに成り得ない。だから、今やれることだけは外さずにやっておいてくださいね、っていう教えなんだけれども。それがねモーツアルトは三歳、五歳、七歳それまでに絶対やっておかなければならないことを、運よくね、運よく偶然に、また周りの教育者の指導によって全部うまーくはまったんですって。それで、もう彼ほど楽譜の中で書き直しをしないままに楽譜を残した作曲家はいないんだそうです。全部頭の中に入っている。だから天才が生まれるには、それにふさわしい背景がやっぱりあるんですねー。

なんか具体的なことでもいいですよ。あなた方二人は、えー一番向こうの二人は、長湯に来られたことはありますか？長湯、去年？お会いしましたよね？あなたお会いしたっけ？お会いしてなかった？違うか。去年は丸長さんだったよね～あそこの喫茶店にこられた方々っていうのは、あはははは、あなた！なんか見かけたことあるなあってふふっ。

質問その二

学生：えーっと若者向けの施設を作りたいと考えたことはありますか？

首藤さん：若い人向き？うーんとねえ、今ねえ、そう～若い人向きのっていうのはあんまり～あんまりこう、思いつくことは無いんだけど、すーあのお今度できるあの長期滞在施設はB & Bで、うーんあの、B & Bって知ってます？あのブレックファストね、朝食とベッド、つまり、あー朝つきの夕食がついていない、朝つきの長期滞在施設。でー一泊が四千円からねっ、五千円ぐらいで泊まれるそういうあの～施設をね、あの今作ろうと計画してるんですけども。それは、まあ若い人向きっていうよりか、どうなるかわからないけれども安くとまれて、長く泊まれて、で勉強するとかあの～体を癒すとかあの、ここをベースキャンプにして、んであのっうちねあのモーターバイクって知ってる？一日40キロぐらいあのこう～走るんですね。あれをね今ね3台持っててあの～今度出来上がるまでね、5台にするんだけどそうすると皆さんがこられてここをベースキャンプにして、今日は湯平とか由布院に行ってみようとかなんか阿蘇山に行ってみようとかいったような作業があ～自転車をこぎながら行くとかね（笑）！そんなことをやれるような～施設を作りたいなあって、さっきの林の中の小さな図書館っていうのはね、あの～実はそれを狙いにした施設なんですね。

う～ん、だからそういった意味では、なんかそういう体験が出来る若い人達がいっぱい、まあリーズナブルなブルにその体験が出来るような施設を作ってみたいって言うのはあるけれどもその～基本的には、あの～私はあの～この長湯っていうのは、あの～川あって静かな環境ですから、あの～ここで逆に長湯というところに来たらあの、こういう気分になるよね。若い人もお年よりもみんな、あ～ゆったりして、あの～例えばあの～川遊びをすとか、あの～お～絵を描きに行くとか、風景を見に行くとか散歩をすとかこの長湯が皆さん方に何を授けるかということが大切なんで、例えばよくあるんだけど、ここ遊び場がないけれども遊園地を作ってくれませんか?っていう話がよくあるの。だけどそれはね、そんなことしてたら無いものねだりをしてしまうっていうか、み～んなどこの観光地も同じ顔になってしまう。うちなんか、むしろそんなことはしなくてもいいし、ドイツの人達が来たときにね、この川沿いをずーっと歩いて、あのどっか迷子になったんじゃないかっていうぐらいみんな散歩を楽しむの。ほんで、それから見てるとね、やっぱりねあの～自分の時間が与えられたときにドイツ人っていうのはね、ものすごく自分を楽しむことが出来る。っと日本人で言うのはもう自由にしているですよっていうときに自分は何をしていいかわからないっていう人が多いの、だから遊園地があったり映画館があったり、何か授けられないとあの自分がもう時間が使えないっていう人達が多いのね。あ～だからそうじゃなくて、皆さん方そのこう逆転を考えると自分の時間が与えられたら私はかならず自分の時間を楽しむことが出来る人間になってるっていうこと。これね、ものすごく大切でね。だから今僕に時間が与えられたら、あ～れを見に行きたいなあとか、釣りをしたいなあとか、本をゆっくり読みたいとか、あの～音楽を聴きながらあの、眠りたいなあとか、色んなあの～メニューが自分の中から出てくるようなそういうあの～人間を作り出しとけばどんな環境の中でもうまく面白くやっていける。若い人だっってとくにそうじゃないかな～って思う。だから若い人向けのっていうのはなんかあんまり私達、私の視野にはないのね。

みんなあの～これ～こういうのが入ってるかな～あの～これは～『VERY』っていうねえ本に、あの～本に掲載を紹介をされた温泉ソムリエの石井さんって方が取材した人、あれなんだけどこれをね、抜いて別印刷してもらったんだけどこの中にいろんな事がこう書かれてあるんで、あの是非ねあの～こんな楽しみ方をしてみてください。この温泉の入り方とかね、なっどこに何があるとかねそんなことはあの～比較的こう書いてますから～いいですか?そういうことで。

白石先生の共感

白石先生：よろしいですか～?またあの～あ～え～とねえあのおそういうことで、え～まあ言われたのは首藤さんと私は、なんか年齢的に近いのでなんかは～いって感じですけども。特にあの～お互いにその～ひとつはあれですね若いころよくわかんないけれども書きとめていったら何か頭に残ってる言葉を書き留めて、そのときはなんとなくわからなかったんですけど、それが30年経って、ぽっとあのときに書き留めた言葉が今にパチッとつながってくる～わかりますね。あの～これ全体私～こう授業組み立てていく時にですね、まああの～青年には絶望を語るよりも希望を語ったほうが良いっていうのがずいぶん昔から、書きとめてあるんですよ。あれ希望を持たずに絶望だけで生きるって、何かを作れるってことはまず無いと考えてますから、ただそういう事は今は私がそういう～年代だからそう思ってるのであって、あの～若い人はいろんな経験あるでしょうけども、まあ経験の中核で将来役に立つのはなんとなく希望じゃないかな～という気がするんです。それからもう一つは、あの～私は教育学もやってますけどもあの～ソクラテスとプラトンの話をするんですけどあの～プラトンもソクラテスに出会って、人間から学ぶって言いま

だね。ほんで、自分はその、小さな井の中だけれども、そこから見る世界は空は高いってことを知っていた。だからあの高い空、あの、まだ知らない世界に自分は挑戦をしたいってその気持ちを、日本の皆さんにファンの皆さんに僕はあの残してそしてあのアメリカに、あの、渡るんだ。って言って出かけたんだって。だからそのイチローのね、僕はこの心意気ってのは、皆さんも今小さな世界だろうけど、皆活躍している、さっき先生が言った本物の人たちも、世界を股にしている人たちもそうだけれども、見ている空ってのは同じ空を見ているんだな。小さな世界に住んでながらも、だから空が高いとか別にまだ大きなものがあるんじゃないかな。自分がまだ出会っていないすっごいものがあるんじゃないかなって思う謙虚さが、あの、やっぱり、前進、進化を生んでいくんじゃないかな。という思いがする。同時にね、あの、イチローが今回の200本安打ね、6年連続で成し遂げたけども、今回非常にまた素直にこんな言葉を言ってましたよね。あの、いつもいつも、あの、自分は不安だ。で、今年200本を記録できるか分からない。来年はもうさらにまだ不安だ。あれだけの偉業を達成している人間だってやっぱり完璧にね、自分は正しいとか自分は強いとかね、そんなことにね、思いきれないそんなもんじゃないって人間はね。だから皆さんもあの決してあのいろんな人、僕らも若い頃そうだけれども、凄いBig Manに会った時に、あの、それが存在しているから自分はね、あ～あ駄目なんだって言うんじゃないで、あの、そんな人たちにもね、必ず大きな不安を持ちながら私たちもそうなんだけれども歩んでいるのね。だから、あのただそれに逃げずに立ち向かっていける自分があるかどうかこれだけはね、忘れずに歩み続けるってことは何よりも大切なんじゃないかな。出来上がるか出来上がらないかなんていうのは人生終わってみないと分からないからとにかく一歩一歩、あの、勇気を持って挑戦をしていくって自分大切にしたいなあとと思いますから、ま、頑張ってください。はい。すいません。どうもありがとうございました。

白石先生：はい。どうもありがとうございました。

首藤さん：すいません。どうも。ありがとうございました。

首藤さんのお話終了後

学生：あ、あの、すいません。あの、写真を撮ってもいいですか。

首藤さん：ああ、そうですか。

白石先生：記念写真。でやっはっは。

首藤さん：はい。

白石先生：では、そっちのデジタルで撮って。あ～ではなく、一丸レンズで撮って。これはちょっとあれだ。じゃあちょっと。

首藤さん：どこかであれします？えっ。私～。ん？

白石先生：ええっと。

首藤さん：撮りますか？

白石先生：うん。首藤さんを囲んで。

首藤さん：よし。

(一同、首藤さんの周りに集まる)

首藤さん：ちょっと電話して5番を押してくれる？とって5番を押して。で～、「すいません写真とってくれませんか」って。

学生：あの～。すいません。あの、写真を撮っていただけますか？

首藤さん：そしたら皆入れるよね。

学生：はい。

首藤さん：二列。

女将さん：失礼いたします。えらく年齢の差がございますね。

首藤さん：そうよ～。

女将さん：真ん中の方お二人と。

首藤さん：ちょうど～。ちょうど、ほら。あの、

白石先生：親子みたいだ。

首藤さん：あの、シンスケと同じ年だ。

女将さん：そうでございますね。えへへへ。はい。ちょっと待ってね。

首藤さん：あんたもまた遠くにして。

女将さん：ちょうど。ここに入らなきゃしょうがないのによう言ったものね。

一同：わははは。

女将さん：いいですか～。は～い。・・・大丈夫だと思いますよ。

白石先生：はい。はい。どうも。

一同：ありがとうございます。

白石先生：あ、あの画像が出てくる。

首藤さん：顔とか切れとったりして。一同：わっははは。

女将さん：ごめん。真ん中だけ差を入れてみました。

一同：えっへへへ。わっははは。

首藤さん：は～いでは皆さんね、あの、温泉、温泉とかでね楽しんでください。

学生：は～いありがとうございます。どうもありがとうございました。

首藤さん：これ。

(首藤さんが一枚ずつ名刺を渡す)

首藤さん：普通は印刷してないんだけど、印刷しているから、皆さんに差し上げよう。

空意思先生：頂きなさい。

学生：はい。ありがとうございます。

首藤さん：あのね。ほんとはね、僕一枚ずつ書くんだけどね。今年は間に合わなくて。仙台で口演をしてたらなくなってしまっただけね。

白石先生：あ～あ。

凄いなあって思ったのが一時間でね。

白石先生：うん。

首藤さん：あの、なんか印刷所に持って行って、書いたそのもののあれを頂いて。

(一同、名刺に釘づけ)

首藤さん：まあ、あのなんだ。あの、ホームページとかいろんなものがあるから、また見てください。

学生：ありがとうございました。

白石先生：どうもありがとうございました。